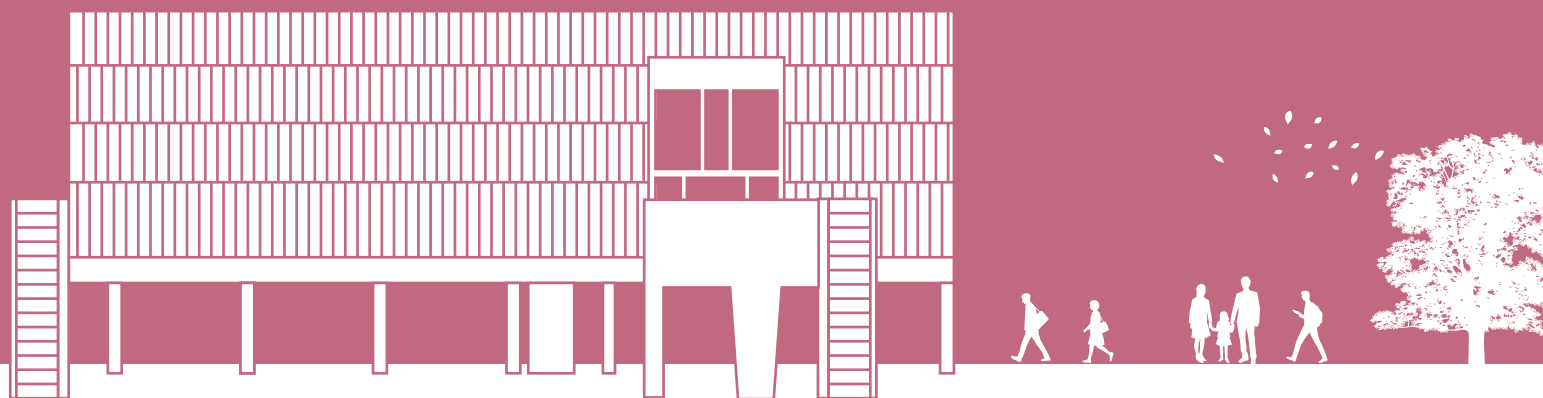


2021年度
学修の手引

建築学部
School of Architecture



建築学部 学修の手引 目次

芝浦工業大学	2
建学の精神／理念・目的	
ディプロマ・ポリシー／カリキュラム・ポリシー	

I 教育方針・体系 3

建築学部 ディプロマ・ポリシー／カリキュラム・ポリシー	3
1 建築学部の教育体系	4
1. 基礎・教養科目群	4
2. 専門科目群	5
3. 全学共通科目群	5
4. コース教育について	6
5. 専門分野・研究室について	6
2 学 籍	8
1. 学籍とは	8
2. 学籍の異動	8
3 卒業要件、卒業研究着手条件、進級停止条件	11
1. 卒業要件	11
2. 卒業研究着手条件	12
3. 進級停止条件	12
4 授業と単位	13
1. 授 業	13
2. 単 位	13
3. 単位の区分	13
4. 学 期	14
5. 授業時間	14
6. 休 講	14
7. 補 講	14
8. 欠 席	14
5 履 修	15
1. 履修登録とは	15
2. 履修登録の流れ	15
3. 他学部の科目を履修する場合（他学部履修）	17
4. 建築学部の他コースの専門科目を履修する場合（他コース履修）	17
5. 履修登録科目の確認	17
6. 学外単位等認定制度について	18
6 試験およびレポートなど	21
1. 試験に関する注意事項	21
2. 追試験	22
3. 不正行為	22
7 成 績	23
1. 成績評定基準と成績通知書等への表記	23
2. 成績通知書	23
3. 成績の確認期間	23
4. GPA	24

II 授業科目 25

1 基礎・教養科目群	25
1. 数学科目	27
2. 物理学科目	27
3. 化学科目	27
4. 英語科目	28
5. 人文社会・情報系教養科目	30
6. 体育・健康科目	32
2 専門科目群	34
1. 専門科目群の概要	34
2. 専門科目群の特徴	35
3. コースによる教育について	35
4. APコースの特徴	36
5. SAコースの特徴	37
6. UAコースの特徴	38
3 建築学部科目配当表	42
基礎・教養科目群	42
専門科目群（APコース）	45
専門科目群（SAコース）	48
専門科目群（UAコース）	50

III 特色ある科目 52

SDGs（持続可能な開発目標）関連科目	52
地域志向科目	54
社会的・職業的自立力育成科目	55
アクティブ・ラーニング科目	57

IV 資格の取得 58

1. 取得できる主な資格	58
2. 建築士 （一級建築士・二級建築士・木造建築士）	59

芝浦工業大学

建学の精神／理念・目的

ディプロマ・ポリシー／カリキュラム・ポリシー

建学の精神

社会に学び、 社会に貢献する 技術者の育成

芝浦工業大学の源は、1927（昭和2）年、創立者 有元史郎が創設した東京高等工商学校です。前身校の時代から芝浦工業大学が継承、堅持しているのが実学重視の技術者育成教育であり、これに建学の精神は根ざしています。

有元史郎が唱えたのは「現代文化の諸相を教材とし、社会的活動の意義を体得する教育」でした。この実学主義の教育により、実用的な知識と技術を併せ持って技術立国を担う技術者、しかも高い倫理観と豊かな見識を備えた優れた技術者の育成に取り組み、芝浦工業大学は社会の進歩発展に貢献してきました。

この建学の精神に基づく教育の結実である有為な人材を輩出して芝浦工業大学は今日に至っており、卒業生は堅実に仕事ができる技術者として社会から高く評価されています。

理念・目的

学術の中心として深く工学の研究を行い世界文化に貢献し、併せて広く一般の学術教養と専門の工業教育を施すことにより、学生の人格を陶冶し、学理を究めさせ体位の向上を図り、もって優秀なる技術者を養成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー

芝浦工業大学は、理工学の基礎知識及び幅広い専門分野の知識を活用して、持続型社会の実現のために世界の諸問題を解決できるとともに、建学の精神に謳われる社会に貢献する理工学人材にふさわしい能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

（学修・教育目標）

1. 世界と社会の多様性を認識し、高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。
2. 問題を特定し、問題解決に必要な知識・スキルを認識し、不足分を自己学修し、社会・経済的制約条件を踏まえ、基礎科学と専門知識を運用し、問題を解決できる。
3. 関係する人々とのコミュニケーションを図り、チームで仕事ができる。

カリキュラム・ポリシー

芝浦工業大学は、学位授与の方針に掲げる知識・スキル・能力・態度を修得させるため、「全学共通科目」、「学部」共通教育科目、「学科」専門教育科目を講義、演習、実験、実習により体系的に編成します。学生の主体的・能動的な学修・研究を促す教育方法を実施し、その学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、学修・教育目標を達成します。建学の精神やディプロマ・ポリシーの達成を目的とした全学生が学べる科目として、全学共通科目を開設しています。

I | 教育方針・体系

建築学部 ディプロマ・ポリシー／カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー

- 建築学部は、自然科学や人文社会科学を含んだ学際的視点を持ち、豊かな建築・都市空間の創造により社会に貢献できる能力、また、多様な価値観が共存する21世紀の世界に適応できる能力を有し、卒業要件を満たしたものに学位を授与します。

(学修・教育目標)

- ① 歴史的発展を踏まえて建築を捉え、現代の建築を取り巻く技術的・社会的問題を理解できる。
- ② 自然・社会・人間に深く関わる建築に、専門家としてたずさわるための高い倫理観を身につけている。
- ③ 自然科学や人文社会科学に関する基礎知識と、建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識を身につけている。
- ④ 世界と社会の多様性を認識し、高いコミュニケーション能力を持ち、21世紀のグローバル社会で活躍できる国際感覚とチームで仕事ができる能力を身につけている。
- ⑤ 豊富な教養と幅広い知識を統合・駆使し、建築や都市をめぐる現代的課題を解決できる。
- ⑥ 課題の発見・解決のために、建築に関わる広範な知識・技術を自ら進んで探求し、理解しようとする姿勢を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

- 建築学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、これからの時代に建築を「いかにつくるか」だけでなく「何のためにつくるか」を重視します。そのため、建築の専門科目に加えて多様な基礎・教養科目によってカリキュラムを構成し教育を行います。
- 専門科目が建築学の専門性を高めるための科目であるのに対し、基礎・教養科目は自然科学の一般法則の知識とその運用方法、基本的な外国語・コミュニケーション能力、社会・文化に関する教養などを身につけるための科目です。また、「建築デザイン」、「工学」、「幅広い教養」の融合を実現するため、専門性の高い科目と基礎・教養科目の横断的な学修を促し、各科目間の相乗効果を生むようカリキュラムを設計しています。これらの教育課程編成方針に基づき、以下の科目構成により授業を実施します。

- ① 専門科目では建築設計や建築技術に関する幅広い専門知識と倫理観を身につけることを狙いとした科目を配置しています。
- ② 基礎・教養科目では、数学・理科・英語のほか、幅広い分野を持つ人文社会系科目を中心に構成し、年次を通じて履修可能とすることで専門教育との横断的融合を実現します。
- ③ 講義科目で学んだ知識を演習・実習科目で実践することで理解を深めていくことを基本としますが、実社会や現場の体験から得られる視点やコミュニケーション能力も重視しています。そのため、国内外でのプロジェクト型実習科目も豊富に配置しています。

- 上記の各授業科目においては知識の伝達のみならず、学生同士や教員との双方向のやり取りを通じて専門知識の深化とコミュニケーション能力の向上を図ります。なお、建築学部では学生が無理のない学修計画を立てられるよう、年間に履修できる科目数に制限を設けています。
- 各授業科目に評価方法・評価基準を設定し、学修成果を多面的に評価し、学生の振り返りを促すことにより、建築学部の学修・教育到達目標を達成します。

1 建築学部教育体系

1 基礎・教養科目群

基礎・教養科目群では、建築学の専門教育の修得に必要な基礎学力を確保することと、専門領域にとらわれないより広い立場での人間教育を行うことを目的としています。

- 基礎・教養科目群は、数理基礎科目、外国語科目、人文社会・情報系教養科目、体育・健康科目で構成され、それぞれの分野の基本的な考え方に触れることによって、幅広い視野の確立や複眼的なものの見方のできる人間教育を行います。すなわち、本学の設立理念である「社会に学び、社会に貢献する」技術者としての社会的立場と役割を認識できるようになるために不可欠な知識と教養を身につけます。

1 数理基礎科目	技術者として生き抜くには、自然科学の原理や方法論を学び、新たな素材の生成や現象の定式化の方法と定式化された式の解法を身につけなくてはなりません。そこで、数学・物理学・化学の基本的な考え方とその手法についての教育を行います。
2 外国語科目	言語科目である英語を中心に構成されています。学問領域のみならず社会との繋がりの中で、情報を得、理解し、そして発信するために必要とされる言語・情報の知識と技能を修得するための教育を行います。
3 人文社会・情報系教養科目	建築・都市と人間や社会との関わりについての幅広い知識や視野、考え方、倫理観を身につけるとともに、現代の建築に不可欠な情報技術についての知識・技能の修得を目的とする科目です。人間の心理や行動、多様な文化や思想、専門家としての倫理観、法律や経済システム、今日の世界が直面する様々な問題に関する授業を開講しています。また、コンピュータやソフトウェア、ネットワーク、プログラミングに関する授業を開講しています。
4 体育・健康科目	講義では、心と身体の健康の維持、増進するための知識・方法を修得することを目的とします。演習では、様々な測定を通して自身の問題点を明確にし、効果的な運動の実践方法を学びます。身体的コミュニケーションスキルでは、コミュニケーションの基礎となるスポーツマンシップを実践し、安全に身体活動を行い、生活習慣の改善にも取り組みます。

2 専門科目群

「基礎・教養科目」が自然科学の一般法則の知識とその運用方法、基本的な外国語能力・コミュニケーション能力、人間の社会・文化に関する教養などを身につけるための科目群であるのに対し、「専門科目」は、建築学そのものの専門性を高めるために修得すべき科目群です。

- 建築学部の専門科目は、「建築総合」、「設計・演習」、「設計・計画」、「都市・地域」、「建築史」、「構法・生産」、「環境・設備」、「構造」、「材料」、「実験」に分類され、それぞれの分野の基礎から応用までを幅広くカバーしています。
- 建築学部では専門科目による教育を段階的に実施するため、1年次～3年次前期を専門基礎課程、3年次後期～4年次後期を専門応用課程と位置づけています。専門基礎課程では、一級建築士受験資格取得を念頭に、建築学の基礎となる「建築デザイン基礎」、「構造力学」、「建築環境工学」、「材料力学」などを学生全員で共通して履修できるようにしています。また、これらの基礎的な科目をベースとして、建築学部建築学科の各コースの専門性を反映したコース独自の専門科目も配置しています。専門応用課程ではより専門性の高い科目の履修が可能となるとともに、「プロジェクトゼミ」、「卒業研究」など卒業論文や卒業制作に向けた科目の履修が可能となります。

3 全学共通科目群

- 全学共通科目群では、「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」という芝浦工業大学の建学の精神と、近年のグローバル化した技術環境の変化を踏まえ、全学部の学生が受講できる学部を超えた共通科目を開講しています。

4 コース教育について

建築学部では上記の科目群について、入学時から3つのコースに分かれて教育を行います。

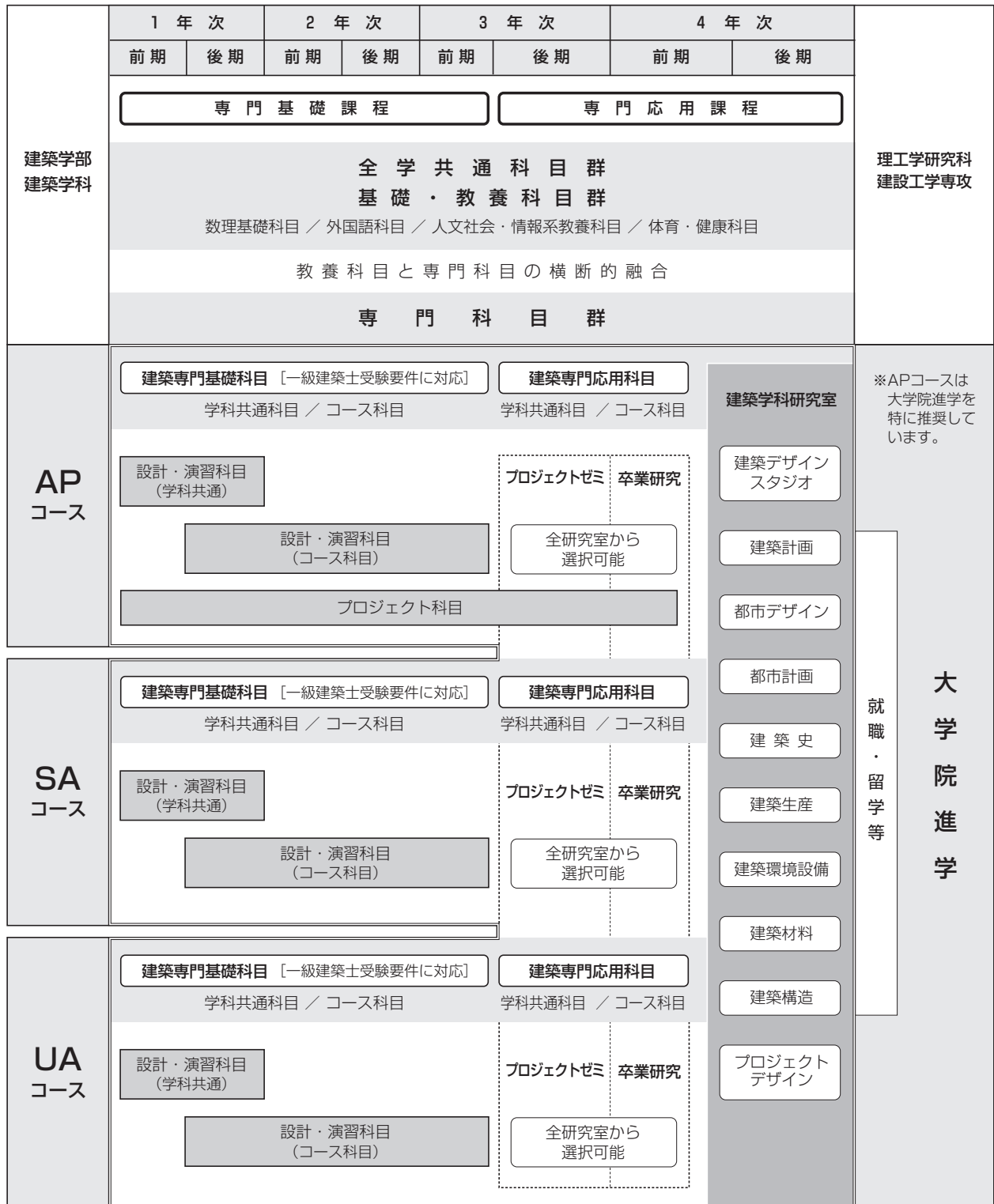
- ①「APコース (Advanced Project Design Course : 先進的プロジェクトデザインコース)」
災害復興、地域再生、エネルギー・環境問題などに取り組む先進的なプロジェクトを通して、グローバルな視点から建築・都市・空間をデザインします。
- ②「SAコース (Space and Architectural Design Course : 空間・建築デザインコース)」
身の回りの空間から住宅、建築などのスケールに重心を置き、幅広い領域の建築技術を総合し、建築・都市・空間をデザインします。
- ③「UAコース (Urban and Architectural Design Course : 都市・建築デザインコース)」
人びとの生活する建築から都市、まちづくりなどのスケールに重心を置き、幅広い領域の建築技術を総合し、建築・都市・空間をデザインします。

- 「建築デザイン基礎」、「力学の基礎」、「建築環境工学」、「BIM演習」などの専門科目と、数学・物理・化学・英語をはじめとする教養科目は、所属するコースに関係なく学科共通で開講します。その際、複数のクラスに分けることで少人数教育を実現し、学修効果を高めます。また、すべてのコースにおいて、基礎となる知識・技術の修得を徹底し、建築に必要な知識・技術の土台づくりに注力し、全コースで一級建築士受験要件を満たすようカリキュラムを工夫しています。
- これらの学科共通のカリキュラムの特徴に加え、各コースの特徴にあわせた「コース科目」を開講し、それぞれのコースの専門性を高められるよう工夫しています（※詳細はⅡ授業科目 2 専門科目群を参照）。

5 専門分野・研究室について

- 建築学部は11分野36研究室を擁し、建築学の幅広い専門分野をカバーしています。これにより、皆さんの向学心に応じて教育にあたります。また、3年次後期の「プロジェクトゼミ」と4年次の「卒業研究1・2」では所属するコースに関わらずすべての研究室から自らの専門分野を主体的に選択できます。これにより、専門分野の理解を深めながら、実践的な研究を進めることができます。

■ 教育体系図



都心キャンパス一貫教育

2 学 籍

1 学籍とは

本学の入学者選考試験に合格し、所定の入学手続きを行い『学生証』の交付を受けた者は、本学の『学籍』を取得し、本学で教育を受け、研究活動を行える『学生』としての身分を有します。

- また、『在学』とは本学の学籍を有する学期において修業していることをいいます。
- 芝浦工業大学の学生であることの自覚と誇りを持って行動してください。

項 目	内 容
修 業 年 限	本学の教育課程を修了するために必要な期間は『4年』です。
在 籍 期 間	本学に在籍することができる期間は『8年』です。
卒 業	卒業とは、本学の教育課程を修了して学生としての身分を終了することです。卒業するには、学士の学位が授与されます。

2 学籍の異動

- 以下の事項に該当する場合には所定の手続きが必要となります。

項 目	内 容	
留 年	留 年 と は	現在の年次から進級しない、もしくは4年次終了時に卒業せず原級に留まることをいいます。
	申 請	①単位の取得状況が思わしくなく自主的に留年する場合 クラス担任と面談のうえ、3月上旬までに『留年願』にて申請してください。たとえ取得単位数が少なくても、進級条件を満たしている場合は申請がない限り進級します。 ②所定の進級条件・卒業要件を満たさない場合 自動的に留年となります。申請は不要です。
	期 間	自主的に留年した場合、もしくは進級条件を満たせず留年した場合は、進級条件を満たして年度末を迎えるまで原級に留まります。前期末時点で進級条件を満たしたとしても、年度の途中で進級することはありません。『卒業停止』のため留年となった場合は、卒業要件を満たせるまで原級に留まります。
	修 業 年 限	留年期間も在籍可能年数の8年に算入されます。

項 目		内 容
休 学	休学とは	傷病その他やむを得ない理由で一定期間修学しないことをいいます。 休学を希望する学期の直前の学期までの学費を全て納めていることが必要です。
	期 間	休学期間は原則1ヵ年以内として、 前期休学 4月1日～同年9月30日 後期休学 10月1日～翌年3月31日 通年休学 4月1日～翌年3月31日 に区分されます。
	申 請	クラス担任と面談のうえ、前期休学・年間休学を希望する場合は3月上旬、後期休学を希望する場合は9月上旬までに『休学願』にて申請してください。 年度をまたぐ場合には、年度毎に『休学願』を申請してください。
	修業年限	休学期間は在籍可能期間の上限8年に算入されますが、修業年限の下限4年には算入されません。
	単位認定	休学期間中に開講されている科目は履修登録ならびに単位取得できません。通年科目を履修中に後期休学をする場合、当該科目の履修は無効となります。休学期間中に学外教育機関において取得した単位は、「学外単位等認定制度」に基づき、指定の期間に申請することができます。
	学 費	休学期間中は、授業料は免除されますが維持料を納入する必要があります。
復 学	復学とは	休学期間を満了し、在学状態に戻ることをいいます。
	申 請	休学期間満了の1～2ヵ月前に、原則として保証人宛に復学に関する案内を送付します。 前期より復学する場合は前年度3月上旬、後期より復学する場合は当該年度9月上旬までに『復学願』にて申請してください。復学せずに引き続き休学を希望する場合は、改めて休学を申請してください。
	学 費	復学した学年・学期に適用される学費を納入してください。
退 学	退学とは	在籍中に、事情により本学を離籍することをいいます。ただし、退学までの学期の学費すべてが納入済みでなければ退学は認められません。学費を未納のまま離籍する場合は、「除籍」となります。 また、学則に基づき、以下のいずれかに該当する者は退学を命じられます。 ① 入学誓約書に違反した者 ② 性行不良で学生の品位を乱し、改善の見込みがない者 ③ 正当な理由がなくて常に出席しない者 ④ 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
	申 請	クラス担任と面談のうえ、前期末での退学を希望する場合は9月上旬、後期末での退学を希望する場合は3月上旬までに『退学願』にて申請してください。なお、退学を命じられる場合はこの限りではありません。また、退学時には『学生証』も返却してください。

項 目		内 容
除 籍	除 籍 と は	<p>学則に基づき、以下のいずれかに該当する者は除籍を命じられます。</p> <p>① 行方不明の届け出があった者</p> <p>② 学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者</p> <p>③ 在籍年数8年を越えた者</p> <p>④ 休学期間満了となっても復学等の手続きをしない者</p>
	停 学 と は	<p>学則に基づき、以下のいずれかに該当する者は停学を命じられます。</p> <p>① 本学の学則にそむいた者</p> <p>② 学生の本分に反する行為があった者</p>
転 部 ・ 転 科	期 間	<p>停学期間は在籍可能期間の上限8年に算入されますが、修業年限の下限4年には算入されません。</p>
	転部・ 転科とは	<p>転部とは、在籍学部から他学部への移籍のことをいいます。</p> <p>転部希望者には、移籍希望学部学科の定める選考（筆記試験・面接等）が課されます。</p> <p>なお、いずれの学部学科においても、当該年度に転部・転科試験を実施するとは限りません。</p>
	学 年	<p>移籍後の学年は、原則として2年次とします。</p>
再 入 学	学 費	<p>移籍先の学科・学年・学期に適用される学費を納入してください。</p>
	再入学とは	<p>本学を退学した者（退学を命じられた者を除く）または、学費未納で除籍となった者が再入学を申請したときは、退学または除籍までの在籍期間を8年から除いた期間以内で卒業見込みのあるものに関り、選考のうえ再入学を許可されることがあります。</p>
	申 請	<p>前期から再入学希望の場合は前年12月上旬、後期から再入学希望の場合は同年5月下旬までに申請してください。</p>
	学 費	<p>再入学する学科・学年・学期に適用される学費を納入してください。</p>

3 卒業要件、卒業研究着手条件、進級停止条件

1 卒業要件

- 4年以上在学し、コースごとに定める下表の単位を取得すること。
- 所定の方法で算出したGPAが2.0以上であること（※GPAについてはI教育方針・体系 **7** 成績を参照）。

1 APコース

科目区分	全学共通科目群	基礎・教養科目群					専門科目群					
		数理基礎科目		外国語科目	人文社会・情報系教養科目	体育・健康科目		必修	コース必修	選択必修1群	選択必修2群	選択
		数学科目	理科学目	英語科目		身体的コミュニケーションスキル科目	理論科目					
単位数		8単位以上		8単位以上	12単位以上			15単位	6単位	1単位以上	2単位以上	50単位以上
総単位数		32単位以上					124単位以上					

2 SAコース

科目区分	全学共通科目群	基礎・教養科目群					専門科目群				
		数理基礎科目		外国語科目	人文社会・情報系教養科目	体育・健康科目		必修	コース必修	選択必修3群	選択
		数学科目	理科学目	英語科目		身体的コミュニケーションスキル科目	理論科目				
単位数		8単位以上		8単位以上	12単位以上			15単位	6単位	2単位以上	51単位以上
総単位数		32単位以上					124単位以上				

3 UAコース

科目区分	全学共通科目群	基礎・教養科目群					専門科目群				
		数理基礎科目		外国語科目	人文社会・情報系教養科目	体育・健康科目		必修	コース必修	選択必修4群	選択
		数学科目	理科学目	英語科目		身体的コミュニケーションスキル科目	理論科目				
単位数		8単位以上		8単位以上	12単位以上			15単位	6単位	2単位以上	51単位以上
総単位数		32単位以上					124単位以上				

2 卒業研究着手条件

- 3年次終了時点における総取得単位数が**110単位以上**であること。

※上記の条件を満たさない場合、4年次に進級しても卒業研究に着手することができないため、当該年度に卒業することができません。

3 進級停止条件

- 2年次終了時点における総取得単位数が**62単位未満**の場合、進級停止とする。

※上記の場合、2年次に留年となります。

4 授業と単位

1 授 業

- 授業には、以下の形態があります。

講 義 科 目	学科で教授すべき知識を体系的に整理し、講義形式で行う科目です。
講義以外の科目	演習・設計・製図・実験・実習・実技などで、知識を体得させ、現象に触れてイメージを描き、自ら創造・計画する能力を育成する科目です。

2 単 位

- 単位とは、授業科目の学修量を数値化したものです。
- 教育課程（カリキュラム）に従い科目を履修し、試験等に合格することによって、その科目の単位を取得したものと認められます。
- 各授業科目の1単位は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とします。単位数は、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によって計算されます。
 - ① 講義及び演習の授業科目については、15時間から30時間までの授業をもって1単位とする。
 - ② 実験、実習及び実技等の授業科目については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
 - ③ 卒業研究については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定める。
- 2単位の講義科目の場合、90時間の学修が必要となります。講義1時限は100分間なので、大学での授業時間に加えて、自学による事前準備（予習）と確認（復習）の学修が求められています。シラバスに書かれた学修時間を守ってください。
- 授業は事前準備（予習）を前提として行われますので、シラバスに書かれている予習項目にしっかりと取り組み、授業に出席してください。また、次回の授業までにその回の授業の確認（復習）を行い、理解をより一層深めることに努めてください。授業を欠席することは、学修内容の未達につながります。

3 単位の区分

- 単位は以下の三つに区分され、各年次に配当されています。

必 修 科 目	修得を義務付けられた科目です。卒業時までには必ず単位を取得しなければなりません。	
選 択 科 目	コース必修科目	所定のコースで卒業までに必ず取得しなければならない科目です。
	選択必修科目	特定する授業科目群から指定の単位数を卒業までに必ず取得しなければなりません。建築学部では1群から4群を設定しており、コース毎にそれぞれの群から取得すべき単位数を定めています。詳細は各コースの科目配当表を参照してください。
	選 択 科 目	各自の関心や必要に応じて自主的に選択する科目です。
自 由 科 目	各自の関心や必要に応じて自主的に選択する科目ですが、卒業要件に含まれません。	

4 学 期

- 本学は、1年間を二つの学期に分ける二学期制（セメスター）と1年間を四つの学期に分ける四学期制（クォーター）を採用しています。セメスターは14週間、クォーターは7週間で完結します。
- セメスターの時期を特定する場合には、名称として「前期」「後期」を使用します。その略号として「1S」「2S」を使用します。
- クォーターの時期を特定する場合には、名称として「第1クォーター」「第2クォーター」「第3クォーター」「第4クォーター」を使用します。その略号として「1Q」「2Q」「3Q」「4Q」を使用します。

5 授業時間

第1時限	9：00～10：40
第2時限	10：50～12：30
第3時限	13：20～15：00
第4時限	15：10～16：50
第5時限	17：00～18：40
第6時限	18：50～20：30

- 授業に出席するときは、学生証を教室のカードリーダーにかざして出席登録をしてください。出席認証開始時間は、第1時限と第3時限は授業開始30分前から、それ以外の時限では授業開始10分前からです。

6 休 講

- 担当教員の学会、病気、その他の理由などにより予定していた授業ができなくなる場合、担当教員の判断で休講になることがあります。
- 休講の情報は、Scombから確認できます。
- これとは別に、台風など自然災害などの際には、大学として臨時休校措置をとることがあります。

7 補 講

- 上記の休講措置がとられた場合には、補講が行われます。また、予定していた授業内容が全て終了しない場合には、担当教員の判断で補講が行われます。
- 補講は原則として授業期間中に行われます。Scombから確認できます。

8 欠 席

- やむを得ない理由で授業を欠席した場合は、「欠席届」を担当教員に提出することができます。「欠席届」が必要な場合は、欠席の日付・理由を証明する書類を用意して、学生課に申し出てください。「欠席届」が発行された場合は、担当教員に提出してください。ただし、「欠席届」の取り扱いは、担当教員に一任されます。

【証明書の例】

病欠：「診断書」「通院証明書＋領収書」「感染症・登校許可証明書（インフルエンザ等感染症の場合）」のいずれか（診断内容、発症日、必要な療養日数、治療日等が明記されていること）

弔事：「会葬案内（礼状）」（3親等以内）

交通遅延：「遅延証明書」

5 履 修

1 履修登録とは

大学では必修科目を除き、自分が受ける授業科目を自主的に決めることができます。そのため、自ら立てた学修計画に従って履修する授業科目を決め、必修科目を含めて登録しなければなりません。これを「履修登録」といいます。

- 履修計画を立てる際は、必修科目である4年次の卒業研究に着手するための条件や卒業要件を成立させるよう、また進級停止条件などに該当しないよう注意してください。
- 履修登録は、前期および後期の授業開始前後に設けられている履修登録期間内にS*gsot（ガソット）で行います。履修登録の期間については、ScombおよびWebサイトでお知らせします。分からない場合は学生課に相談してください。

2 履修登録の流れ

① 時間割案の作成

- 4月の授業開始前に行われるガイダンスでの学修指導を受け、授業時間割を基に各自の時間割案を作成します。時間割は本学Webサイトの時間割検索システムを、各授業科目の講義内容はシラバス検索システムを参照してください。

注) 時間割は変更になることがありますので、本学Webサイトにて確認してください。

時間割検索システム : <http://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp>

シラバス検索システム : <http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp>

② 授業科目のガイダンスについて

- 各授業科目の授業内容に関するガイダンスは、原則として初回の授業の中で行われます。

3 履修制限について

教育効果を考慮して履修可能な人数を制限する場合があります。

- 履修制限対象科目については履修制限人数を超えた場合に抽選を行います。

【履修登録する際の注意事項】

- 自分が履修する科目は必修科目も含めて登録しなければなりません。履修登録期間後、必ず各自で登録科目の確認をしてください。確認期間を過ぎてからの履修登録はできません。
- 履修登録できる単位数の上限は、原則、**年間48単位**（半期25単位）です（集中開講科目を除く）。ただし、直近半期のGPAが一定の値以上の学生は条件を緩和します。詳細は履修登録の際にS*gsotで確認してください。
- 通年開講科目および前期開講科目（第1クォーター・第2クォーター開講科目を含む）は前期履修登録期間内に登録し、後期開講科目（第3クォーター・第4クォーター開講科目を含む）は後期履修登録期間内に登録してください。
- 集中開講科目は、時間割表に記載されている開講期の履修登録期間に登録をしてください。
- 上級学年に担当されている科目は履修できません。
- 他学部科目の履修登録は、指定期間内に申請書を提出してください。
- 原則として同一曜日・時限に2科目以上履修（重複履修）することはできません。
- 履修した科目が不合格となった場合、改めてその科目を履修することを「再履修」といいます。すでに合格して単位認定を受けた科目は再履修できません。
- 前期履修科目の成績評価が「不合格（D・F）」であった場合、専門科目（「卒業研究1・2」を除く）以外の科目は、原則として後期に同一科目を再履修することができます。
- 原則として、直前学期の学費が全額納入されていない場合は履修登録できません。

3 他学部の科目を履修する場合（他学部履修）

他学部履修制度は、幅広い分野の科目の聴講を目的とするもので、在籍学部・学科の科目として開講されていない授業内容の科目が対象です。他学部の科目を履修する場合は、次の事項に注意して学生課に登録申請を行ってください。

- ① 学生課より、各学期の授業開始日から履修登録締切日までに『他学部・他学科開設科目履修申請書』を申請する科目につき1枚ずつ受け取ってください。
- ② 他学部履修をする場合は、授業科目の担当教員の履修許可が必要です。
- ③ 申請書に必要事項を記入し、学生本人が履修登録締切日までに学生課へ提出してください。なお、担当教員に直接申請書を提出しても、当該科目の履修登録はされません。
- ④ 他学部履修科目の卒業要件への算入可否の審査は建築学部で行い、審査結果は後日通知します。
- ⑤ 他学部履修申請した科目の履修取り消しはできません。
- ⑥ 他学部の科目は、在学中に30単位を限度に取得することができます。

4 建築学部のおコースの専門科目を履修する場合（おコース履修）

- 建築学部では所属するコースで開講されていない他のコースの専門科目の履修を一部認めています。ただし、当該科目の履修状況により他コース履修が出来ない場合がありますので注意してください（Ⅱ授業科目 **2** 専門科目群を参照）。
- 他コースの科目を履修する場合は、次の事項に注意して学生課窓口で登録申請を行ってください。
 - ① 学生課より、各学期の授業開始日から履修登録確認・修正期間締切日までに『他コース開設科目履修申請書』を申請する科目につき1枚ずつ受け取ってください。
 - ② 他コース履修をする場合は、授業科目の担当教員の履修許可が必要です。
 - ③ 申請書に必要事項を記入し、学生本人が履修登録確認・修正期間締切日までに学生課へ提出してください。なお、担当教員に直接申請書を提出しても、当該科目の履修登録はされません。
 - ④ 他コース履修申請した科目の履修取り消しはできません。
 - ⑤ 他コース履修科目の卒業要件への算入可否の審査は建築学部で行い、審査結果は後日通知します。なお、専門基礎課程である3年次前期までの学生については、卒業要件への算入を原則不可とします（集中開講科目はその限りでない）。

5 履修登録科目の確認

- 履修登録をした科目は、S*gsotに表示されます。また、履修登録通知書もS*gsotからダウンロードできますので、科目名称、担当教員、曜日、時限などが正しく登録されているかを必ず確認してください。
- この確認を怠り、履修登録されていない授業に出席し、試験を受けても単位は認定されません。誤って登録された科目はそのまま成績評価されます。
- 履修登録確認修正期間中に修正（不要な科目の登録・削除）の手続きをしてください。

6 学外単位等認定制度について

<本学入学前に取得した単位>

- 本学学生が本学入学前に「他大学等教育機関（※）」において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができます。編入学、転学等の場合を除き、在籍中に修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとします。
- 学士入学、編入学、再入学した者は、別に定めるところにより既修得単位の認定を受けることができます。

<本学在籍中に取得した単位>

- 本学学生が本学在籍中に外国を含む「他大学等教育機関（※）」において履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。
- 本学が開講する授業科目を履修しながら「他大学等教育機関（※）」が開講する授業科目を並行して受講する場合、学生は当該期の本学および他大学等教育機関の履修申請前にクラス担任、指導教員等の履修指導を受ける必要があります。
- 他大学等教育機関で受講する科目の開講期間が、本学の授業科目の開講期間（前期・後期、1Q～4Q）と重なる場合、履修登録単位数の上限は、本学で履修する授業科目と他大学等教育機関で履修する科目を合わせて、原則として年間48単位（半期25単位）です。なお、他大学等教育機関で受講する科目の開講期間が本学の授業科目の開講期間外、またはほとんどの期間が本学の授業科目の開講期と重ならない場合は、履修登録単位数制限の限りではありません。

※「他大学等教育機関」とは、大学・短期大学・高等専門学校専攻科、その他文部科学大臣が認めた教育施設をいいます。

「学外単位等認定制度」は、以下に示す ①～③ の 3 種類に分類することができます。

① 申請単位認定	<p style="text-align: center;">学生が独自に計画し学外単位等を取得する（した）場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学中に学外単位等を取得し、本学で認定を受けようとする場合は、定められた期間内に学生課に申し出て所定の手続きをしてください。入学前に学外単位等を取得し、本学で認定を受けようとする場合の申し出は、入学時の決められた期間に限ります。 ・建築学部では、各種の英語検定試験の得点を以下のとおり単位として認定し、また、放送大学で開講されている全科目を認定単位の対象として認めています。これらについても所定の手続きが必要となります。 <p style="text-align: center;">各種英語検定試験の単位認定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得点結果を証明する書類を定められた期間内に学生課に提出することにより、得点に応じて所定の科目名で単位が認定されます。また、認定単位は卒業要件に算入されます。 <p style="text-align: center;">■「学外英語検定」（2 単位）</p> <table border="1" data-bbox="555 875 919 1140"> <tr> <td>TOEIC</td> <td>730点以上</td> <td rowspan="5"> ※プレイスメントテストならびに履修科目の成績評価の一部として履修学期末にTOEIC-IPを受験した際の得点は、学外英語検定の対象となりません。 ※上記以外の本学内で実施される「TOEIC-IP」テストの得点については「学外英語検定」の対象とします。 ※TOEIC、TOEFLの得点結果の有効期間は、検定試験の受験日から2年以内とします。 </td> </tr> <tr> <td>TOEFL (PBT)</td> <td>550点以上</td> </tr> <tr> <td>TOEFL (CBT)</td> <td>213点以上</td> </tr> <tr> <td>TOEFL (IBT)</td> <td>79点以上</td> </tr> <tr> <td>英 検</td> <td>1 級</td> </tr> </table>	TOEIC	730点以上	※プレイスメントテストならびに履修科目の成績評価の一部として履修学期末にTOEIC-IPを受験した際の得点は、学外英語検定の対象となりません。 ※上記以外の本学内で実施される「TOEIC-IP」テストの得点については「学外英語検定」の対象とします。 ※TOEIC、TOEFLの得点結果の有効期間は、検定試験の受験日から2年以内とします。	TOEFL (PBT)	550点以上	TOEFL (CBT)	213点以上	TOEFL (IBT)	79点以上	英 検	1 級
TOEIC	730点以上	※プレイスメントテストならびに履修科目の成績評価の一部として履修学期末にTOEIC-IPを受験した際の得点は、学外英語検定の対象となりません。 ※上記以外の本学内で実施される「TOEIC-IP」テストの得点については「学外英語検定」の対象とします。 ※TOEIC、TOEFLの得点結果の有効期間は、検定試験の受験日から2年以内とします。										
TOEFL (PBT)	550点以上											
TOEFL (CBT)	213点以上											
TOEFL (IBT)	79点以上											
英 検	1 級											
② 協定単位認定	<p style="text-align: center;">本学部と学外教育機関との間に単位認定に関する協定が結ばれ、あらかじめ特定の単位が本学部の単位として認められている場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「協定単位認定」に関する協定を結んでいる学外教育機関としては次に説明する「東京理工系4大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく協定大学があります。 <p style="text-align: center;">「東京理工系4大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく特別聴講生制度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝浦工業大学と工学院大学・東京電機大学・東京都市大学の4大学は上記協定に基づき各大学間の単位互換制度を設けています。それぞれの大学が定める科目を他の3大学の学生に対しても開放しており、この協定に基づき他大学の授業を聴講する学生を特別聴講生（芝浦工業大学が受け入れる他大学生の呼称。大学により呼び方は若干異なります）といいます。 ・上記各大学の科目履修申し込み期間は年2回（前期：4月上旬、後期：9月中旬）あり、Scombにて通知しますので、希望者は定められた期間内に学生課に申請を行ってください。各大学の時間割表・シラバス等は学生課や各大学Webページでも閲覧できます。 ・学生の申し込みに基づき、学生課より各大学に履修申請を行います。各大学にて審査が行われ、その結果が1週間～2週間程度で本学に通知されます。ただし、正式に履修を許可されるまでの間についても履修を希望する各大学の授業には必ず出席し、不明な点などがある場合は各大学の教務課等に相談してください。 ・聴講先での入学検定料・入学金・聴講料は免除されます。ただし、実験・実習等で特別にかかる費用は各大学の定めにより実費徴収されることがあります。特別聴講生の成績は各大学より学生課を通じて通知されます。なお、各大学で特別聴講生として取得した単位が卒業要件に算入されるかどうかは、建築学部が決定します。 											

<p>3 協定留学単位 認定</p>	<p>本学と留学の協定をしている教育機関等へ留学した場合。</p> <ul style="list-style-type: none">• 「協定留学単位認定」に関する協定を結んでいる教育機関は、以下のURLを参照してください。• 芝浦工大の海外留学 http://www.shibaura-it.ac.jp/global/index.html なお、本プログラムで認定した単位は4単位を上限に卒業要件に算入されます。 <p>■ 「海外語学演習（短期）1～4」（1単位） ■ 「海外語学演習1～4」（2単位）</p>
--	---

6 試験およびレポートなど

各科目の成績評価は、小テスト、中間試験、期末試験、レポート、発表などの方法を用いて判定されます。

- 各科目の成績評価の詳細はシラバスに記載されています。

1 試験に関する注意事項

① 試験時間割の発表	<ul style="list-style-type: none"> • 原則として授業担当教員より発表します。授業科目によっては、通常の授業時とは異なる教室や曜日・時間に実施する場合があります。
② 座席の指定	<ul style="list-style-type: none"> • 中間試験および期末試験の際に、各自の座席が座席表指定されている科目は、これに従って着席してください。座席の指定がない場合は、試験監督の指示に従ってください。
③ 学生証の提示	<ul style="list-style-type: none"> • 試験を受ける場合は必ず学生証を持参し、試験教室では学生証を机上通路側の見やすい場所に置いてください。 • 学生証を忘れた場合は、学生課で『仮身分証明書』の交付を受けてください。 • 『仮身分証明書』は当日の当該試験科目に限り有効ですので、終了後は速やかに学生課へ返却してください。
④ 試験教室への入室について	<ul style="list-style-type: none"> • 試験所要時間の2分の1を超過すると、試験教室への入室は認められません。
⑤ 持ち込み可能な物品について	<ul style="list-style-type: none"> • 試験中に机の上に置いて良いものは、原則として、シャープペンシル、鉛筆、ボールペン、消しゴム、時計のみとします。 • ノート、プリント等の参照が許可されている場合は、綴られ、かつ自己の署名のあるものに限りします。 • 計算機などは、授業ごとに許可されている場合に限り使用できます。 • 試験に不必要なもの、指定されていないものはかばんの中にしまい、閉めて、見えないようにしてください。これらが守られないときには、『不正行為』とみなされる場合があります。
⑥ 試験監督者の指示	<ul style="list-style-type: none"> • 試験教室では、試験監督者の指示に従って受験してください。 • また、試験監督者の許可があった場合を除き、学生相互間の筆記用具その他の貸借は一切禁止します。 • 試験監督者の指示に従わないときは『不正行為』とみなされることがあります。
⑦ 携帯電話・スマートフォン等について	<ul style="list-style-type: none"> • 試験教室内では、携帯電話・スマートフォン等の電子通信機器の電源を必ずOFFにし、かばんの中にしまってください。 • また、携帯電話・スマートフォン等を計算機・辞書・時計として使用することは禁止します。

2 追試験

- 学生本人の傷病、その他やむを得ない事情（正当な理由）で期末試験を受験できなかった場合は、速やかに授業担当教員に申し出てください。授業担当教員が認めた場合に追試験を実施します。なお、必要に応じて欠席届の提出を求める場合があります。

3 不正行為

- 各科目の成績評価において不正行為を行った者には、**その期に履修登録した全ての科目の単位認定を行わない、学内に不正行為の公表を行うなどの処分を科します。**

<p style="text-align: center;">試 験 (小テスト) 中間試験 期末試験</p>	<p>他人の答案を盗み見る行為はもちろんのこと、次に挙げる行為も全て不正行為とみなされますので、絶対に行わないようにしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 不正行為を行う目的で作成した資料を試験場に持ち込み見た場合、および見ようとした場合。(使用しなくても持ち込むだけで不正行為になりえます。) ② 参照を許可されていないノート・教科書・参考書・電子通信機器等を見た場合。 ③ 机上、壁面あるいは電子通信機器等に試験に利益となる事項を記載し、かつこれを使用した場合。および他人が作成した上記の記録等を自己の答案作成の用に供した場合。 ④ ①～③の資料等を交換又は他人からの貸与等を受け、答案を作成した場合。 ⑤ 答案の交換（複数で答案を作成した場合を含む）あるいはすり替え、盗用を行った場合。 ⑥ 他人の答案又は他人の①～③の資料等を盗み見て、答案を作成した場合。 ⑦ 自己の代わりに他人が答案を作成した場合。 ⑧ 他人の答案を作成した場合。 ⑨ 解答用紙を持ち帰ろうとした、又は持ち帰った場合。 ⑩ その他、試験の目的に反する行為をした場合。
<p>論文、レポート、作品等の提出物</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 他人によって作成された論文、レポート、作品等を提出した場合。 ② 文献、インターネット上の情報を無断で盗用したり、引用元を明らかにせずに文章の多くを無断使用した場合。 ③ その他、提出物作成の目的に反する行為を行った場合。

7 成績

- 成績は、試験の結果や勉学の成果を成績評定基準により評価し、学生個人に通知するものです。
- 成績評価と認定単位数を記載した『成績通知書』をS*gsot（ガソット）に掲載します。
- 成績は『学籍簿』に記載され、大学に永久保存されます。各自でしっかり確認してください。
- なお、就職活動や大学院受験などの際には、必要に応じて『成績証明書』を取得してください。

1 成績評定基準と成績通知書等への表記

- 『成績通知書』には以下のように表示します。

成績 評定	合否等	成績評価点 (Grade Point)	成績評定基準等
S	合格	4	評定点：90点～100点
A			評定点：80点～89点
B		3	評定点：70点～79点
C		2	評定点：60点～69点
D	不合格	1	評定点：50点～59点
F		0	評定点：0点～49点
G	履修中		
#	成績未報告	当該科目の成績は、(3) 成績の確認期間の説明を参照してください。	
N	認定	他大学等教育機関等で取得し、入学時もしくは在学中に認定された科目等 ※GPAに算入されません。	

- 『成績証明書』の成績評定においては「S」、「A」、「B」、「C」、「N」が記載されます。

2 成績通知書

- 各期成績は、S*gsot上の『成績通知書』により通知します（前期は8月下旬頃、後期は2月中旬頃）。

3 成績の確認期間

- 成績に関する質問は、確認期間に学生課で受付けます（確認期間はScombで発表します）。
- 成績の問い合わせを行う場合は『成績通知書』を提示の上、学生課まで申し出てください。確認期間中に申し出がない場合は確認済とみなします。確認期間以外では成績に関する質問は受付けません（成績未報告科目を除く）。

4 GPA

- 本学では、成績評価にGPA (Grade Point Average) を導入しています。GPAとは学修の質を計るための成績評価方法で、各科目の成績に基づく成績評価点 (Grade Point、GP) の、履修登録単位あたりの平均値により学修の達成状態を表すものです。成績評価点と評定点、成績通知書の表示記号との対応は前ページ表を参照してください。成績通知書には、学期ごとのGPAと全在学期間で算出したGPA (累積GPA) を、履修単位数と併せて記載します。不合格の科目については再履修が可能です。再履修し、前回履修時の成績を上回る成績を修めたときには、成績評価点が更新されます。既に合格した科目については、再履修による成績評価点の更新はできません。
- GPAは、卒業要件、成績優秀者顕彰、学業不振者の抽出等に使用されます。自らが履修に対して責任を持ち、履修した科目を着実に学修することで、よりよい成績を修めることが肝要です。自らの学修への取り組みや達成度を省みるための指標として活用してください。
- また、卒業要件においてGPAの下限が定められていますので、不合格科目は再履修して合格点を取り、確実な学びに結びつけてください。

■ GPA算出方法

$$\text{GPA} = \frac{4 \times (\text{S} \cdot \text{A取得単位数}) + 3 \times (\text{B取得単位数}) + 2 \times (\text{C取得単位数}) + 1 \times (\text{D取得単位数})}{\text{履修登録単位数}}$$

※GPAに下記の科目は含まれません。

卒業要件に算入しない科目、自由科目、認定科目

※GPAは小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までが記載されます。

Ⅱ 授業科目

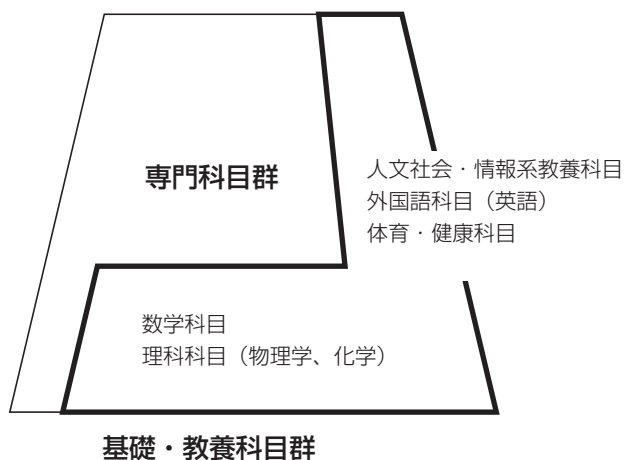
1 基礎・教養科目群

基礎・教養科目群の概要

- 基礎・教養科目群は、数学科目、物理学科目、化学科目（以上数理基礎科目）、外国語科目、人文社会・情報系教養科目、体育・健康科目で構成されています。
- これらの科目を通して、4年間の建築・都市分野の学修に必要な基礎力を鍛えるとともに、分野を超えた幅広い視野や知識、柔軟な思考力・応用力、コミュニケーション能力を身につけることを目的とします。

基礎・教養科目群の基本方針

- 基礎・教養科目群のそれぞれの科目は、建築学部の教育理念を受け、「自然科学や人文社会科学に関する基礎知識・能力と世界に適応できる能力を身につけた専門家の育成」を目標に、次の3項目を基本指針に定め、設計してあります。
 - I. 建築・都市分野の専門教育の修得に必要な基礎学力をつける
 - II. 高い倫理観と幅広い視野・知識の修得、それらを統合・駆使する柔軟な思考力・応用力を養う
 - III. 世界で活躍するためのコミュニケーション能力と多様性への理解を身につける
- 学生諸君が学ぶ、専門科目と基礎・教養科目の関係を簡単に示したものが下図です。社会が求める学力・能力を身につけるためには、どの科目も必要であり、大切なものです。
- 自分の夢や進路を考えながら適切な履修計画を立ててください。



基礎・教養科目群におけるそれぞれの科目の概要

数 学 (数理基礎科目)	科学技術の発展に携わる技術者として不可欠な確かな計算力、物事を論理的に考える力、物事を系統立てて考える力を備えた人材育成を教育研究の目的としています。確かな基礎学力の上に、これらの力が段階的につくように、科目の構成を行い開講しています。
物 理 学 (数理基礎科目)	建築学部の専門教育が前提とする物理学に関する基礎学力を身につけること、また社会において科学技術の発展に携わる技術者として不可欠と思われる自然科学の基本的な原理、方法論、常識を備えた人材を育成することを教育研究の目的としています。
化 学 (数理基礎科目)	いかなるものづくりにおいても欠かせない、素材を作る技術の基礎となり、また、人類の活動と地球環境との関わりについて考える基礎となる化学の教育研究を目的としています。基礎的化学科目の教育を通じて、化学の素養を持ちながら、様々な専門分野で活躍する技術者の育成をめざしています。
英 語 (外国語科目)	建築の世界でグローバルに活躍するために必要な英語コミュニケーション能力を備えた人材育成をめざします。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、実務につながる応用力をつけるために、段階的な科目を開講しています。
人 文 社 会・ 情報系教養科目	建築・都市と人間や社会との関わりについての幅広い知識や視野、考え方、倫理観を身につけるとともに、現代の建築に不可欠な情報技術についての知識・技能の修得を目的とする科目です。人間の心理や行動、多様な文化や思想、専門家としての倫理観、法律や経済システム、今日の世界が直面する様々な問題に関する授業を開講しています。また、コンピュータやソフトウェア、ネットワーク、プログラミングに関する授業を開講しています。
体 育・健康科目	体力の維持・向上は勿論のこと、生活習慣の見直しと確立、スポーツマンシップの実践を目的とした科目です。運動・栄養・休養のバランスを整え、心と体の健康を管理できる能力を養成します。また、モラルの体得をねらいとした本学独自のスポーツ教育の実践により、社会の一員として誇りや自信の持てる人材を育成することを目的としています。

大宮キャンパスでの履修について

建築学部では1・2年次の金曜日を「大宮DAY」として設定しており、大宮キャンパスで開講される一部の基礎・教養科目を受講することができます。大宮キャンパスは建築学部以外の全ての学部の1・2年次生が通学するキャンパスであり、他学部の学生と交流することができます。また、正課外活動も活発に行われており、クラブやサークルに所属して様々な活動を行うことができます。ぜひ積極的に活用してください。受講できる科目と開講教室については時間割を確認してください。

学習サポート室について

講義を受けて理解できないときなど、日頃の学修や試験に向けた学修を支援するため、「学習サポート室」が豊洲キャンパス教室棟2階に設置されています。学習サポート室では、数学、物理、英語について学習サポート室担当教員が個別指導を行い、皆さんの学修の手助けをします。講義でわからないことがあるときや学習方法についての相談があるときには、ぜひ有効に利用してください。なお、金曜日は「大宮DAY」のため、大宮キャンパス学生会館2階の工学部学習サポート室を利用することができます。

1 数学科目

- 2021年度入学生が受講できる数理基礎科目の数学は次のとおりです。
「微分積分1」、「微分積分2」、「線形代数1」、「線形代数2」、「確率と統計1」、「確率と統計2」、
「微分方程式」、「関数論」、「ベクトル解析」、「ラプラス変換」、「フーリエ解析」
- 入学当初はまず、「微分積分1」と「線形代数1」を受講し、その後は順に、「微分積分2」や、「線形代数2」を受講するとよいでしょう。これらは、この先に学ぶ数学の基礎となる科目です。これらの科目を修得してからでないと、他の数学科目を正確に理解することは難しいでしょう。
- 上記、数理基礎科目のうち、「確率と統計1」以降の科目は、シラバスを参照して履修するか否かを判断してください。自然科学系の科目で扱う内容を建築学で使いこなせるようになるためには、しっかりした基礎固めと正確な理解が必要です。大学では何をどのように履修すべきか、一人ひとりで異なります。数学の履修について不安や疑問があれば、所属しているコースの教員や担任、または数学担当の教員に相談してください。
- 数学の授業や学習の仕方についてわからないこと、不安などがある場合は、学習サポート室を積極的に利用してください。

2 物理学科目

- 建築学の基礎としての物理学を学修するための科目が数理基礎科目に配置されています。数理基礎科目では、「物理学入門」、「基礎力学」、「基礎電磁気学」、「基礎熱統計力学」が開講されています。
- また、講義の学修目標を十分に達成し理解を深めるために、独立した演習科目である「基礎力学演習」、「基礎電磁気学演習」、「基礎熱統計力学演習」がそれぞれの講義担当者によって開講されていますので講義科目とその演習を併せて履修することが効果的です。
- 「物理学入門」では、力学と電磁気学の基礎的な内容について学びます。力学分野では運動方程式、電磁気学分野では静電場と直流回路を扱います。
- 「基礎力学」と「基礎力学演習」は質点の力学から始まり、剛体の力学、振動で構成されています。
- 「基礎電磁気学」および「基礎電磁気学演習」ではクーロンの法則からマクスウェルの電磁方程式までの一般的な電磁気学を学びます。「基礎熱統計力学」および「基礎熱統計力学演習」は熱機関、エントロピーや自由エネルギーなどの熱力学分野とボルツマン統計の統計力学分野を学びます。

3 化学科目

- 建築物や工業製品を実際に形のあるものにするためには、素材が必要です。その素材を作り出すのが「化学」です。また、深刻な環境問題を抱えている現代社会においては、地球環境に負荷がかからないよう、日常生活や経済活動における自然環境との関わり方を考え直す必要に迫られています。そこに力を発揮するのも「化学」です。したがって、「化学」は「建築学」を学ぶ学生にとっても重要な基礎の一つであり、化学を学ぶことによって、将来社会で活躍するために役立つ多くのことを学ぶことができます。
- 建築学部における化学関連科目には、「基礎環境化学」があります。「基礎環境化学」では、環境問題を切り口としながら、化学の基礎を固め、建築学部の卒業生として社会に出て行く際に修得していることが望ましい、教養としての化学を身につけます。

4 英語科目

- 英語科目は、全て2単位です。
- 1年次前期はListening & Speaking、後期はReading & Writingをそれぞれ履修することを強く推奨しており、事前にクラスの指定がされています。
- Listening & SpeakingとReading & Writing以外の科目は、全て2年次以降の開講科目です。前期あるいは後期のどちらでも履修できます。卒業に必要な英語（外国語科目）の単位数は8単位です。自分が必要とする単位数を考え、計画的に英語科目を履修してください。なお、選択科目を履修する際には事前に履修登録をします。クラス定員数より受講希望者数が多い場合は抽選となります。
- 以下に開講科目と簡単な内容説明があります。詳細はウェブシラバスを参照してください。履修の順序は特に決まっていますが、4技能（reading, writing, listening, speaking）を練習する科目をバランスよくとることが望ましいです。（注：TOEIC IPとはTOEICの団体特別受験制度のことです。）
- すべての科目で学期末TOEIC IPスコアが成績評価に算入されます。

① Reading / Writing 科目

Reading & Writing	建築に関連するトピックを扱う教材を使い、Reading techniqueを身につけて読みの基礎力を高めます。また、基本的なパラグラフの構成も同時に学びますので、書く力も伸ばすことを目指すクラスです。
Reading	工学および科学に関連した内容についての比較的難易度の高い長文を正確にかつ困難なく読み、内容を理解する力をつけます。
Writing	英文パラグラフ構築の仕方や短いエッセーの取り組み方を学びます。英語の表現形式に慣れ、自分の考えを簡潔で自然な英語でパラグラフにまとめる練習を行います。

② Listening / Speaking 科目

Listening & Speaking	建築に関連する様々な場面での会話練習を通して、聴く・話す基礎力を高めるクラスです。建築を学ぶ学生に必要な基礎的な語彙を使った会話練習や聞き取り練習を行います。
English Communication	世界における様々な問題を題材に、様々な聴き方の練習を通じリスニング力をつけると同時に、聞いた内容について話すことを通じて、情報や考えを英語で伝える力と自信をつけます。
Presentation I	効果的な英語プレゼンテーションを行うための基礎を学びます。自分の考えを明確かつ分かりやすく伝えるためのスピーチの組み立て方や様々なプレゼンテーション・テクニックを学びます。
Presentation II	学問や研究の場で求められるプレゼンテーションのテクニックを学び、パワーポイントなどのソフトを用いたグループ発表や個人発表ができるように練習を積みみます。

③ TOEIC 科目

TOEIC 1	TOEICテストの得点を伸ばすことを目的とします。Listening Section・Reading Sectionの問題を練習し、また頻出単語や文法を学修すると同時にテストを受ける際のコツも学びます。
TOEIC 2	TOEICで比較的高得点が取得できる英語力のある学生向けの授業です。TOEIC 1同様、Listening Section・Reading Sectionの問題を練習し、また頻出単語や文法も学修します。

1 継続履修の勧め

語学は継続して学修することにより効果が期待できます。就職活動や大学院受験に際して「もっと英語をやっておけばよかった」という声をよく聞きます。また、卒業後の業務や研究の場で英語の必要性をあらためて感じる人が多いのも事実です。1・2年次だけでなく、3・4年次にも英語科目を継続して履修することを勧めます。

2 学習サポート室利用について

英語の授業でわからないことや、英語学修一般・建築留学などについての相談がある場合は、積極的にサポート室を利用してください。また、わからないことや不安なことがあれば、所属する学科の先生、担任の先生、または英語専任教員にいつでも相談してください。

5 人文社会・情報系教養科目

ここではQ&A形式で人文社会・情報系教養科目について説明します。

Q：人文社会・情報系教養科目って何ですか？

A：ひとこと言えば、“人間や社会、情報に関して広い視野で学ぶ”科目群です。

入学後は、専門科目群とは別に基礎・教養科目群と呼ばれる科目も履修しなければなりません。「人文社会・情報系教養科目」は、「数理基礎科目」、「外国語科目」、「体育・健康科目」と同じ基礎・教養科目群に位置づけられています。

Q：なぜ、建築学部には人文社会・情報系科目があるのですか？

A：大きく分けて2つの理由があります。

1つは、大学を卒業し、社会人として活動する際に必要な知識・教養を身につけるためです。卒業し、社会人として活動する際、求められる能力は「専門技術」だけではありません。他者と協力して“働く”ためには、自分も含めた人間をより良く理解することが必要ですし、経営・管理という立場になれば、経済や法律についての一定の知識が必要となります。また、国際化・情報化が進んでいるため、異なる文化・慣習に身を置いたり、情報に関する知識・技術が必要になります。人文社会・情報系教養科目は、将来そんな状況になったとき「自分はどうすれば良いのか」を考える“糸口”や“能力”を身につけてもらうためにあるのです。

もう1つは、建築分野と深く関連している人間・社会・情報を学ぶためです。建築分野は、人々の生活や社会、環境に大きな影響を及ぼしており、そのために技術者には高い職業倫理や幅広い知識、豊かなコミュニケーション能力、情報処理能力が求められています。また、建築分野における技術やものづくりは人々や環境、社会の要請に応えるものでなければならず、そのために技術者は人間の心理や行動、人間が創り出した多様な文化や思想、政治制度や経済システム、さらには今日の世界が直面する経済や社会、環境などの様々な問題について十分に学ぶ必要があります。建築学部において人文社会・情報系教養科目が開講されるのは、そうした建築と人間・社会との関わりを学ぶためでもあるのです。

Q：いつ、どのように学ぶのですか？

A：1年から4年まで全ての学年で履修できます。

様々な科目がありますが、1～2年生を対象に人文社会科学の基礎を学ぶ基礎的教養科目と、3～4年生を対象に卒業研究や就職活動をも念頭に置いて自己の専門分野に関連する人文社会系科目を学ぶ展開教養科目、コミュニケーション能力やプレゼンテーション、文章の書き方、コンピュータスキルなど社会人として（大学生として）身につけておくべきスキル（リテラシ）を身につける基礎スキル科目があります。

したがって、「早く片づけてしまおう」などとは考えず、自分自身の幅を広げる機会と思って積極的に履修してください。

Q：実際的な効果は、何かあるのですか？

A：第一に、就職活動に役立ちます。第二に、卒業後の人生にとって重要な財産となります。

就職活動の場合、どのような業種や企業を目指すのかというときに、より幅広く正確な判断ができるようになります。また、採用試験では多くの企業が「一般常識」をテストしますが、ハウ・ツー本で対応できるようなレベルではありません。また、面接における“やりとり”も同様です。そこで必要な“力”を「人文社会・情報系教養科目」でつけてください。

卒業後、全員が「建築の現場」で専門職として働けるとは限りません。企業の事情、本人の判断によっては営業職、事務職として働かなくてはならない場合もあります。また、管理的・経営的な仕事に就くこともあります。そんなときに「自分はどうすれば良いのか」を考え・実行し、解決する“能力”を身につけてもらうのが「人文社会・情報系教養科目」です。

このように、「人文社会・情報系教養科目」は決してコマ切れの知識を詰め込む科目などではなく、学生諸君の“生きる能力”を高めるための科目群なのです。

Q：具体的にはどのような科目があるのですか？

A：次の科目が用意されています。すべて2単位です。

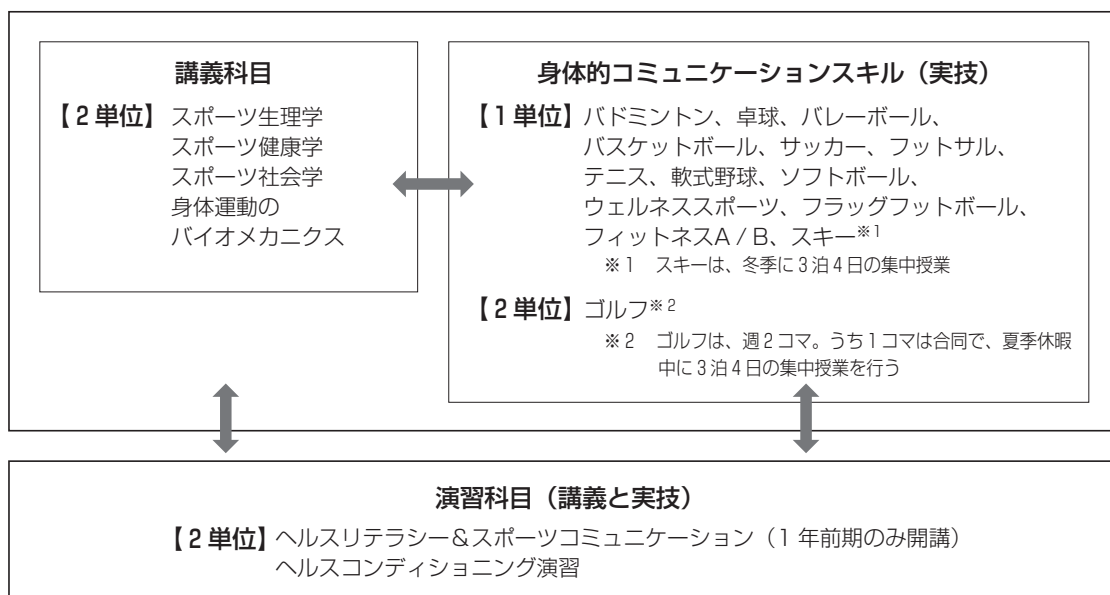
なお、「*2」のついている科目は2年生以上が、「*3」のついている科目は3年生以上が履修できる科目です。

	科 目 名
文 化	比較文化論*3、アジア文化論、文化人類学
国 際 社 会	現代日本の社会、グローバリゼーション論*2
芸 術 学	芸術学
哲 学・倫 理 学	生命倫理、技術者の倫理、哲学・倫理学*3
文 学	都市と文学
地 理 学	地域・社会調査入門*2、地域と経済*2
政 策 学	地方自治論*2
法 学	法学入門、日本国憲法、民法*2、知的財産法*3
経 済 学	現代の日本経済、応用経済学*3、経済学
社 会 学	社会学、ジェンダー論*2、地域社会学*2
情 報 学	情報リテラシ
社 会 情 報 学	情報アクセシビリティ論*2、情報時代の地域・都市*2、映像メディア論*2
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	プレゼンテーション入門、レポートライティング
社 会 と 産 業 技 術	福祉と技術
環 境	人間社会と環境問題、地域と環境*2、地域環境マネジメント*3、 生産と消費の環境論*2

6 体育・健康科目

1 授業の構成

体育・健康科目は、2単位の理論科目（演習を含む）と1単位の身体的コミュニケーションスキル（実技）に大きく分かれます。体育・健康科目は1～4年生まで4年間にわたって自由に選択して履修することができますが、まず初めに1年前期に開講される、「ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション」の履修をすることを推奨します。

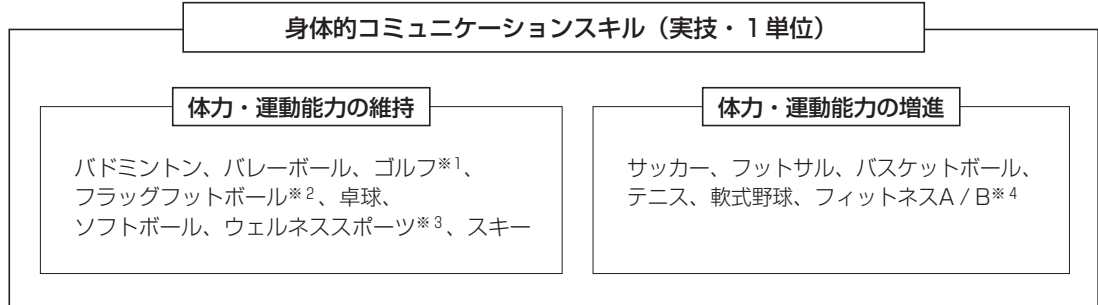


ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーションは、その上位に位置する**理論科目**、**演習科目**、**身体的コミュニケーションスキルのスポーツ種目**を円滑に学修できるようにするための基礎科目となっています。身体的コミュニケーションスキル（実技）は、スポーツの実践だけでなく、自己の健康管理を実践し、他者とのコミュニケーションを促進する内容となります。在学中における体力の維持・向上は勿論のこと、生活習慣の見直しと確立、そしてスポーツマンシップの実践をすることで心と体の健康管理を出来るように構成されています。

社会が求める「信頼される社会人」になるためには、心身の健康とコミュニケーション能力が必要です。コミュニケーションの基本的な姿勢として、相手を尊重する (respect) ことが重要であり、自分もrespectされるような人物にならなければなりません。つまりgood sports (信頼される人物) になる必要性があります。本科目では、心と体の健康、社会性について解説し、得た知識を実践し、習慣化できることを最終目標としています。

2 身体的コミュニケーションスキルについて

身体的コミュニケーションスキルは、スポーツ種目によって身体負荷が若干変わることから、体力・運動能力の維持を目的とした種目と増進を目的とした種目に分けています。



※1 ゴルフ（2単位）	基礎技術はもちろん、リスクマネジメントやメンタルマネジメントなどを学びます。週2コマ履修となり、1コマは学内での技術練習、他の1コマはコース実習となるが通常授業では不可能なため、他のクラスと合同で夏季休暇中に集中授業（3泊4日）で振り替えます。
※2 フラッグフットボール	アメリカで一番人気のスポーツであるアメリカンフットボールの「力」の部分（タックルやブロック）を排除した、年齢・性別に関わらず、運動が苦手な人でも安全に楽しめる種目です。言わば、戦略が重要な鬼ごっこであり侵略型陣地取りスポーツです。
※3 ウェルネススポーツ	多種多様な簡易種目を単元毎に実施します（例；ウォーキング、筋力トレーニング、ニュースポーツ等）。
※4 フィットネスA/B	自己の健康増進を目的とした授業です。Aは有酸素運動、Bは筋力トレーニング中心の授業展開となります。

2 専門科目群

1 専門科目群の概要

- 「基礎・教養科目」が自然科学の一般法則の知識とその応用方法、基本的な外国語能力・コミュニケーション能力、人間の社会・文化に関する教養などを身につけるための科目群であるのに対し、「専門科目」は、建築学そのものの専門性を高めるために修得すべき科目です。建築学部の専門科目は、「設計・演習」、「設計・計画」、「都市・地域」、「建築史」、「構法・生産」、「環境・設備」、「材料」、「構造」、「実験」、「建築総合」に分類され、それぞれの分野の基礎から応用までを幅広くカバーしています。

1 設計・演習分野

「建築デザイン基礎 1・2」、「建築スタジオ演習 1～4」、「空間建築デザイン演習 1～4」、「都市建築デザイン演習 1～4」などにより、実践的な製図・設計演習を通じて建築デザインについて学びます。

2 設計・計画分野

「建築の形態と空間」、「建築設計計画論」、「建築計画 1・2」、「建築設計論」、「ランドスケープ論」などにより、人間・建築物・自然環境の相互関係を念頭においた建築を計画する手法について学びます。

3 都市・地域分野

「都市地域計画」、「地域マネジメント」、「都市住宅論」、「都市デザイン論」、「都市開発マネジメント」、「都市防災計画」などにより、都市や地域のデザインとそこに生まれる社会的課題の解決方法について学びます。

4 建築史

「居住空間史」、「西洋建築史」、「日本建築史」、「建築文化史」、「近代建築史」などにより、歴史上の建築空間と人間の営みとの相互関係について学びます。

5 構法・生産分野

「建築ものづくり」、「建築構法」、「木造建築」、「建築生産」、「建築プロジェクトマネジメント」などにより、設計図を現実の建築として実現する方法論とプロセスを学び、BIMをはじめとする新しい時代の建築技術者に必須のスキルを身につけます。

6 環境・設備分野

「建築環境工学 1・2」、「建築設備」、「空調システム計画」、「都市環境設備計画」、「建築音響計画」などにより、建物や都市の環境計画、設備システム、エネルギー効率などについて学びます。

7 材料分野

「構造材料」、「仕上げ材料」、「維持保全・改修」などにより、建築に用いられる材料の性質を理解し、目的に適した材料を選定し利用する方法などについて学びます。

8 構造分野

「力学の基礎」、「構造力学・演習」、「材料力学・演習」、「建築構造計画」、「建築構造解析・演習」、「鉄筋コンクリート造の設計 1・2」などにより、力学の基礎知識から構造設計や施工方法などについて学びます。

9 実験

「建築環境実験」、「建築材料施工実験」、「建築構造実験」、「建築材料構造実験」などにより実験や実習を体験することで、講義で学んだ知識・技術を実践し、理解を深めて応用力を高めます。

10 建築総合分野

「国際ワークショップ1～4 A,B」、「建築英語」、「プロジェクトゼミ」などにより、建築分野に共通するスキルや、講義で身につけた知識・技術を実践する方法などについて学びます。

2 専門科目群の特徴

1 専門基礎課程と専門応用課程による教育

専門教育を段階的に実施するため、1年次～3年次前期を専門基礎課程、3年次後期～4年次後期を専門応用課程と位置づけています。専門基礎課程では、一級建築士受験資格取得を念頭に、建築学の基礎となる「建築デザイン基礎」、「構造力学」、「建築環境工学」など多様な建築分野をすべてのコースで共通して履修できるようカリキュラムを設定しています。これらの基礎的な科目をベースとして、専門応用課程ではより専門性の高い科目の履修が可能となるとともに、「プロジェクトゼミ」、「卒業研究」など卒業論文や卒業設計に向けた科目の履修が可能となります。

2 演習、実験・実習などを通じた体験的学修の重視

建築学部では演習科目や実験・実習科目を豊富に開講しており、講義で学んだ知識を実践し、理解をより深めることを重視しています。

3 学生の主体的な学びを促すカリキュラム

建築学部では、卒業するために必ず履修しなければならない必修科目を少なく設定し、選択科目の比率を高めています。これにより、学生の学びの方向性に合わせて柔軟に専門科目を選択することができ、専門性を高めることができます。

4 研究室選択の柔軟性

建築学部では、幅広い専門分野の36研究室を擁しています。「プロジェクトゼミ」、「卒業研究」は、3つのコースの所属に関係なく、これらの36の研究室から自由に選択することが可能です（ただし、各研究室の希望者数により、成績などによる選抜・調整を行う場合があります）。なお、3年次のプロジェクトゼミ、4年次の卒業研究は、各研究室に分かれてゼミ形式で行う科目ですので、通常の履修登録に加えて、研究室への配属が必要です。配属方法については、各年次のガイダンスで説明します。

3 コースによる教育について

- 建築学部では複数のコースに共通して開講している専門科目と、各コースの目指す人材育成の方針にしたがって特定のコースのみで開講している専門科目（コース科目）があります。
- 共通して開講している多くの専門科目では2つのクラスを設け、それぞれコースを割り当てることによって少人数教育を実現し、学修効果を高めています（例えば、必修科目の「建築デザイン基礎1」は2クラスで開講することにより1クラスあたりの受講者数を抑えています）。
- コース科目はそれぞれのコースの特徴にしたがって開講される専門科目です。原則として当該科目が開講されていないコースの学生は受講することができません（各コースの開講科目の詳細は科目配当表を参照、コース専門科目については「※コース」と記載あり）。受講を強く希望する他コースの科目がある場合は、所定の手続きにしたがって履修申請を行ってください。（p.17「建築学部の他コースの専門科目を履修する場合（他コース履修）」を参照。ただし、必ず履修できるとは限りません。）

4 APコースの特徴

- 設計演習では、コースの規模を生かした少人数制指導で設計技術を確実に身につけます。
- 「国内プロジェクト」、「国際ワークショップ」などのプロジェクト科目では、災害復興、地域再生、古民家再生、エネルギー・環境問題といった現代的な建築テーマを切り口として学ぶことで、問題発見・解決能力を養います。

- 「建築スタジオ演習」、「プロジェクト研究」などに加え、海外の協定大学との建築実習を独自科目として開講します。設計技術に加えて、社会の諸問題を解決するための国際的な知見を身につけます。
- 「空間情報デザイン演習」では、3Dモデリングツールを利用した最先端の空間表現技術を学びます。

APコース・カリキュラムの流れ 2021年度

専門共通科目
 コース科目
 学科必修科目
 コース必修科目
 コース選択必修科目

科目分野	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
設 計	建築デザイン基礎 1	建築デザイン基礎 2	CAD・CG演習					
		建築スタジオ演習 1	建築スタジオ演習 2	建築スタジオ演習 3	建築スタジオ演習 4A	建築スタジオ演習 4B		
			イタリア・ローマ建築実習		空間情報デザイン演習			
	APコース専門科目群選択必修 1 群		国内プロジェクト 1, 2, 3, 4-1 年～3 年前期までの夏休み又は春休み		APコース専門科目群選択必修 2 群			
計 画	建築デザイン入門	建築の形態と空間	住生活論	色彩・素材論				
			プロジェクト研究 1	プロジェクト研究 2	プロジェクト研究 3	空間保全再生計画		
			建築設計計画論		近代建築と技術	ランドスケープ論		
			建築計画 1		建築構法計画論			
都市・地域			都市地域計画		建築法規			
				地域設計論	近代建築作家論	建築計画 2		
				地域マネジメント		建築・都市法規		
					都市住宅論	GIS演習		
建築史	居住空間史	デザイン史	西洋建築史	日本建築史				
					都市デザイン論	都市開発マネジメント		
						都市防災計画		
					建築文化史	近代建築史		
構法・生産				BIM演習 1	BIM演習 2			
					建築生産	施工計画・管理		
		建築ものづくり		木造建築	建築プロジェクトマネジメント	建築経済		
					建築構工法 1	建築構工法 2		
環境・設備		建築環境工学 1	建築環境工学 2	建築設備	空調システム計画	建築音響計画		
					都市環境設備計画	建築環境学		
						給排水システム計画		
						光環境計画		
材 料			構造材料	仕上げ材料		維持保全改修		
構 造	力学の基礎	構造力学・演習	材料力学・演習	建築構造解析・演習	鉄筋コンクリート造の設計 1	鉄筋コンクリート造の設計 2		
			建築構造計画		鋼構造の設計	マトリックス構造解析		
						建築振動解析		
						基礎構造		
実 験						建築防災		
					建築環境実験			
					建築材料施工実験			
					建築構造実験			
建築総合					建築材料構造実験			
	APコース専門科目群選択必修 2 群		国内ワークショップ 1, 2, 3, 4		-1 年～4 年までの夏休み又は春休み			
			国際ワークショップ 1～4 A,B		-1 年～4 年までの夏休み又は春休み			
			海外建築研修					
				インターンシップ 1, 2-3 年～4 年までの夏休み又は春休み				
					建築英語			

プロジェクトゼミ

建築家職能論

卒業研究

5 SAコースの特徴

- 設計演習では戸建て住宅にはじまり、小学校、集合住宅、図書館、美術館など、人間がつくり出す生活環境全般を課題として設定しています。人びとの生活スタイルや家族構成、敷地条件などを考えながら取り組みます。
- 「空間建築デザイン演習」、「建築設計計画論」、「都市住宅論」、「ランドスケープ論」など、人びとが体験するさまざまな空間や建築を主な対象とする科目を豊富に開講します。

- 下町などをフィールドとしたまちづくりの提案、既存住宅ストックの再生、良好な音環境や空気環境計画、内部空間デザインと一体化された構造の設計など、総合的な視点を持って建築を考える「プロジェクトゼミ」につながります。

SAコース・カリキュラムの流れ 2021年度

専門共通科目
 コース科目
 学科必修科目
 コース必修科目
 コース選択必修科目

科目分野	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
設 計	建築デザイン基礎 1	建築デザイン基礎 2	CAD・CG演習					
		空間建築デザイン演習 1	空間建築デザイン演習 2	空間建築デザイン演習 3	空間建築デザイン演習 4 A	空間建築デザイン演習 4 B	空間地域デザイン演習	
計 画	建築デザイン入門	建築の形態と空間	住生活論	色彩・素材論	建築法規			
				環境心理学	建築構法計画論			
			建築設計計画論	建築設計論	近代建築と技術	ランドスケープ論		
都市・地域			都市地域計画	地域設計論	都市住宅論	GIS演習		
建築史	居住空間史	デザイン史	西洋建築史	日本建築史	建築文化史	近代建築史		
構法・生産				BIM演習 1	BIM演習 2	木造建築の設計		
				建築構法	建築生産	施工計画・管理		
環 境 ・ 設 備		建築環境工学 1	建築環境工学 2	建築設備	空調システム計画	建築音響計画		
					都市環境設備計画	給排水システム計画		
						建築環境学		
						光環境計画		
材 料			構造材料	仕上げ材料		維持保全改修		
構 造	力学の基礎	構造力学・演習	材料力学・演習	建築構造解析・演習	鉄筋コンクリート造の設計 1	鉄筋コンクリート造の設計 2		
			建築構造計画		鋼構造の設計	マトリックス構造解析		
						建築振動解析		
						基礎構造		
実 験						基礎構造		
						建築防災		
建 築 総 合								
				海外建築研修				
							インターンシップ 1, 2-3 年～4 年までの夏休み又は春休み	
						建築英語		

プロジェクトゼミ

卒業研究

建築環境実験
 建築材料施工実験
 建築構造実験
 SAコース専門科目群
 選択必修 3 群

6 UAコースの特徴

- 設計演習では名作住宅を題材とした図面と模型製作からはじまり、図書館、集合住宅、美術館、中高層のオフィスなど、段階的な対象規模に広がりのある課題を設定しています。
- 「都市建築デザイン演習」、「木造建築」、「地域マネジメント」、「海外建築研修」など、建築、都市、まちづくりを主な対象とする科目を豊富に開講しています。

- 過疎地域の空き家に対する移住計画の提案、古い建物の改修提案、CAD・BIMを利用した建設現場での生産性向上、省エネルギー性を高める改善策の提案など、実践的な学修を通して建築を考える「プロジェクトゼミ」につながります。

UAコース・カリキュラムの流れ 2021年度

専門共通科目
 コース科目
 学科必修科目
 コース必修科目
 コース選択必修科目

科目分野	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
設 計	建築デザイン基礎 1	建築デザイン基礎 2	CAD・CG演習					
		都市建築デザイン演習 1	都市建築デザイン演習 2	都市建築デザイン演習 3	都市建築デザイン演習 4 A	都市建築デザイン演習 4 B		
					都市地域デザイン演習			
					イタリア・ラクイラ建築実習			
計 画	建築デザイン入門	建築の形態と空間	住生活論	色彩・素材論		空間保全再生計画		
			建築計画 1	環境心理学		ランドスケープ論		
都市・地域			都市地域計画		近代建築作家論	建築計画 2		
				地域マネジメント		建築・都市法規		
建築史	居住空間史	デザイン史	西洋建築史	日本建築史		GIS演習		
					都市デザイン論	都市開発マネジメント		
構法・生産				BIM演習 1		都市防災計画		
		建築ものづくり		木造建築	建築文化史	近代建築史		
環境・設備		建築環境工学 1	建築環境工学 2	建築設備	BIM演習 2			
					建築プロジェクトマネジメント	建築経済		
材 料			構造材料	仕上げ材料	建築構工法 1	建築構工法 2		
					空調システム計画	建築音響計画		
構 造	力学の基礎	構造力学・演習	材料力学・演習	建築構造解析・演習	都市環境設備計画	給排水システム計画		
			建築構造計画			建築環境学		
						光環境計画		
						維持保全改修		
実 験					鉄筋コンクリート造の設計 1	鉄筋コンクリート造の設計 2		
					鋼構造の設計	マトリックス構造解析		
建築総合						建築振動解析		
						基礎構造		
						建築防災		
					建築環境実験	UAコース専門科目群 選択必修 4 群		
				建築材料構造実験				
			国際ワークショップ 1～4 A,B		-1年～4年までの夏休み又は春休み			
			国内ワークショップ 1, 2, 3, 4		-1年～4年までの夏休み又は春休み			
			海外建築研修			インターンシップ 1, 2-3年～4年までの夏休み又は春休み		
						建築英語		

プロジェクトゼミ

卒業研究

表1 建築学部・建築学科 カリキュラムツリー ①

◎学科必修科目 ○コース必修科目 ①AP 選択必修1群 ②AP 選択必修2群 ③SA 選択必修3群 ④UA 選択必修4群 ※は前期・後期とも開講する科目 ★は不定期開講科目

建築学部建築学科学修・教育到達目標	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
① 人々の生活や社会の発展に寄与する建築文化を創造するための教養や思考力を身につけ、建築の技術や方法論を適切に使うことができる。	居住空間史	デザイン史	西洋建築史 住生活論	日本建築史	建築文化史 近代建築と技術 近代建築作家論	近代建築史	◎卒業研究 1	◎卒業研究 2
② 建築が社会生活や自然環境に及ぼす影響や効果を理解し、専門家としての倫理を遵守・実践することができる。	建築デザイン入門	◎建築環境工学 1	建築環境工学 2		都市環境設備計画 建築法規	建築防災 維持保全・改修 空間保全再生計画 建築・都市法規 都市防災計画	◎卒業研究 1 建築家職能論	◎卒業研究 2
③ 自然科学や人文社会科学に関する知識を援用して、建築にかかわるさまざまな事象を論理的に説明することができる。	力学の基礎	◎構造力学・演習	材料力学・演習 建築構造計画	建築構造解析・演習	鉄筋コンクリート造の設計 1 鋼構造の設計	○プロジェクトゼミ 基礎構造 鉄筋コンクリート造の設計 2 マトリックス構造解析 建築振動解析	◎卒業研究 1	◎卒業研究 2
	線形代数 1 微分積分 1 基礎環境化学 物理学入門	※ ※ ※ 線形代数 2 微分積分 2 基礎力学 基礎力学演習 基礎電磁気学 基礎電磁気学演習	確率と統計 1 微分方程式 ベクトル解析 フーリエ解析 ラプラス変換 関数論 基礎熱統計力学 基礎熱統計力学演習	※ ※ ※ ※ ※ 確率と統計 2				
	情報リテラン 技術者の倫理 生命倫理 日本国憲法 法学入門 社会学 人間社会と環境問題 福祉と技術 都市と文学 現代日本の社会 芸術学 文化人類学 アジア文化論 現代の日本経済 経済学 プレゼンテーション入門 レポートライティング	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	情報アクセシビリティ論 映像メディア論 情報時代の地域・都市 民法 地方自治論 ジェンダー論 地域社会学 生産と消費の環境論 地域と環境 グローバルイゼーション論 地域・社会調査入門 地域と経済	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	哲学・倫理学 知的財産法 地域環境マネジメント 比較文化論 応用経済学	※ ※ ※ ※ ※		
④ 建築設計や建築技術に関する体系的な専門知識を身につけ、それらを活用することができる。	◎建築デザイン基礎 1 建築デザイン入門 力学の基礎	◎建築デザイン基礎 2 ○建築スタジオ演習 1 ○空間建築デザイン演習 1 ○都市建築デザイン演習 1 建築の形態と空間 建築ものづくり 建築環境工学 1 構造力学・演習	○建築スタジオ演習 2 ○空間建築デザイン演習 2 ○都市建築デザイン演習 2 ◎CAD・CG 演習 建築設計計画論 建築計画 1 都市地域計画 建築環境工学 2 材料力学・演習 建築構造計画 構造材料	色彩・素材論 建築環境心理学 ○建築スタジオ演習 3 ○空間建築デザイン演習 3 ○都市建築デザイン演習 3 建築設計論 地域マネジメント 地域設計論 建築構法 木造建築 BIM 演習 1 建築設備 建築構造解析・演習 仕上げ材料	空調システム計画 都市環境設備計画 建築スタジオ演習 4 A 建築スタジオ演習 4 B 空間情報デザイン演習 空間建築デザイン演習 4 A 空間建築デザイン演習 4 B 都市建築デザイン演習 4 A 都市建築デザイン演習 4 B 都市地域デザイン演習 近代建築と技術 近代建築作家論 建築構法計画論 建築法規 都市住宅論 都市デザイン論 建築生産 建築プロジェクトマネジメント BIM 演習 2 建築構工法 1 鉄筋コンクリート造の設計 1 鋼構造の設計	○プロジェクトゼミ GIS 演習 建築音響計画 給排水システム計画 光環境計画 基礎構造 鉄筋コンクリート造の設計 2 マトリックス構造解析 建築防災 維持保全・改修 空間地域デザイン演習 ランドスケープ論 建築計画 2 空間保全再生計画 建築・都市法規 都市開発マネジメント 都市防災計画 施工計画・管理 建築経済 木造建築の設計 建築構工法 2 建築環境学 建築振動解析	◎卒業研究 1 建築家職能論	◎卒業研究 2

表1 建築学部・建築学科 カリキュラムツリー ②

◎学科必修科目 ○コース必修科目 ①AP 選択必修1群 ②AP 選択必修2群 ③SA 選択必修3群 ④UA 選択必修4群 ※は前期・後期とも開講する科目 ★は不定期開講科目

建築学部建築学科学修・教育到達目標	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
⑤ 豊富な教養と専門知識を統合、駆使して、種々の制約条件や解決すべき課題を整理・分析し、合理的な方法によって建築をデザインすることができる。		○建築スタジオ演習1 ○空間建築デザイン演習1 ○都市建築デザイン演習1	○建築スタジオ演習2 ○空間建築デザイン演習2 ○都市建築デザイン演習2	○建築スタジオ演習3 ○空間建築デザイン演習3 ○都市建築デザイン演習3	建築スタジオ演習4A 建築スタジオ演習4B 空間情報デザイン演習 空間建築デザイン演習4A 空間建築デザイン演習4B 都市建築デザイン演習4A 都市建築デザイン演習4B 都市地域デザイン演習	○プロジェクトゼミ 空間地域デザイン演習	◎卒業研究1	◎卒業研究2
	情報リテラシ 技術者の倫理 生命倫理 日本国憲法 法学入門 社会学 人間社会と環境問題 福祉と技術 都市と文学 現代日本の社会 芸術学 文化人類学 アジア文化論 現代の日本経済 経済学 プレゼンテーション入門 レポートライティング	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	情報アクセシビリティ論 映像メディア論 情報時代の地域・都市 民法 地方自治論 ジェンダー論 地域社会学 生産と消費の環境論 地域と環境 グローバルイゼーション論 地域・社会調査入門 地域と経済	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	哲学・倫理学 知的財産法 地域環境マネジメント 比較文化論 応用経済学	※ ※ ※ ※ ※		
⑥ グローバルに活躍できるさまざまな能力を身につけ、自分の意見や提案、情報を相手に論理的に伝えることができると同時に、他者の考えを理解し尊重することができる。	②国際ワークショップ1A ②国際ワークショップ2A ②国際ワークショップ3A ②国際ワークショップ4A ②国際ワークショップ1B ②国際ワークショップ2B ②国際ワークショップ3B ②国際ワークショップ4B	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	②イタリア・ローマ建築実習A ②イタリア・ローマ建築実習B	★ ★ ②海外建築研修	インターンシップ1 インターンシップ2 ②韓国建築実習A ②韓国建築実習B ②フランス建築実習A ②フランス建築実習B ②イタリア・ラクイラ建築実習A ②イタリア・ラクイラ建築実習B ②ロシア建築実習A ②ロシア建築実習B	建築英語	◎卒業研究1	◎卒業研究2
	Listening and Speaking	Reading and Writing	Reading Writing Presentation I Presentation II English Communication TOEIC 1 TOEIC 2	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※				
⑦ 課題の発見・解決のために自ら継続して学修・探求することができる。	②国際ワークショップ1A ②国際ワークショップ2A ②国際ワークショップ3A ②国際ワークショップ4A ②国際ワークショップ1B ②国際ワークショップ2B ②国際ワークショップ3B ②国際ワークショップ4B	★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	プロジェクト研究1 ②イタリア・ローマ建築実習A ②イタリア・ローマ建築実習B	プロジェクト研究2 ②海外建築研修 ★ ★	プロジェクト研究3 インターンシップ1 インターンシップ2 ②韓国建築実習A ②韓国建築実習B ②フランス建築実習A ②フランス建築実習B ②イタリア・ラクイラ建築実習A ②イタリア・ラクイラ建築実習B ②ロシア建築実習A ②ロシア建築実習B	○プロジェクトゼミ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	◎卒業研究1	◎卒業研究2

3 建築学部科目配当表

表1 基礎・教養科目群 (2021年度入学生)

△ 選択科目

	科目番号	科目名称	単位数	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		週 コマ数	講義 区分	学修・教育 到達目標	備考
					前	後	前	後	前	後	前	後				
全学共通科目	10099002	芝浦工業大学通論	2	1	△	△							1	講義	1	
	10017002	ダイバーシティ入門	2	1	△	△							1	講義	6	
	10099042	技術経営入門	2	1	△	△							1	講義	1	
	10099052	社会ボランティア実習 (東京2020オリンピック・ パラリンピック)	1	1	△ (不定)								1	実習	1	集中
	10099012	Japanese Language I	2	1	□	□							1	講義	6	
	10099022	Japanese Language II	2	1	□	□							1	講義	6	
	10099032	Japanese Language III	2	1	□	□							1	講義	6	
数理基礎科目	数学科目	S2014000	線形代数1	2	1	△	△						1	講義	3	
		S2020000	線形代数2	2	1		△						1	講義	3	
		S2026000	微分積分1	4	1	△	△						2	講義	3	
		S2032000	微分積分2	4	1		△						2	講義	3	
		S2038000	確率と統計1	2	2			△	△				1	講義	3	
		S2044000	確率と統計2	2	2				△				1	講義	3	
		S2050000	微分方程式	2	2			△	△				1	講義	3	
		S2056000	ベクトル解析	2	2			△	△				1	講義	3	
		S2062000	フーリエ解析	2	2			△	△				1	講義	3	
		S2068000	ラプラス変換	2	2			△	△				1	講義	3	
	S2074000	関数論	2	2			△	△				1	講義	3		
	理科学目	S2076000	物理学入門	2	1	△							2	講義	3	
		S2079000	基礎力学	2	1		△						1	講義	3	
		S2082000	基礎力学演習	2	1		△						1	演習	3	
		S2085000	基礎環境化学	2	1	△	△						1	講義	3	
		S2088000	基礎電磁気学	2	1		△						1	講義	3	
		S2091000	基礎電磁気学演習	2	1		△						1	演習	3	
S2094000		基礎熱統計力学	2	2			△					1	講義	3		
S2097000	基礎熱統計力学演習	2	2			△					1	演習	3			
外国語科目	英語科目	S2210000	Listening and Speaking	2	1	△							1	講義	6	
		S2213000	Reading and Writing	2	1		△						1	講義	6	
		S2220000	Reading	2	2			△	△				1	講義	6	
		S2226000	Writing	2	2			△	△				1	講義	6	
		S2228000	Presentation I	2	2			△	△				1	講義	6	
		S2231000	Presentation II	2	2			△	△				1	講義	6	
		S2234000	English Communication	2	2			△	△				1	講義	6	
		S2241000	TOEIC 1	2	2			△	△				1	講義	6	
		S2243000	TOEIC 2	2	2			△	△				1	講義	6	

表1 基礎・教養科目群 (つづき)

△ 選択科目

	科目番号	科目名称	単位数	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		週 コマ数	講義 区分	学修・教育 到達目標	備考	
					前	後	前	後	前	後	前	後					
人文社会・ 情報系 教養科目	情報学	S2410000	情報リテラシ	2	1	△							1	講義	3.5		
	社会情報学	S2413000	情報アクセシビリティ論	2	2			△	△					1	講義	3.5	
		S2416000	映像メディア論	2	2			△	△					1	講義	3.5	
		S2419000	情報時代の地域・都市	2	2			△	△					1	講義	3.5	
	哲学	S2423000	哲学・倫理学	2	3					△	△			1	講義	3.5	
		S2428000	技術者の倫理	2	1	△	△							1	講義	3.5	
		S2434000	生命倫理	2	1	△	△							1	講義	3.5	
	法学	S2437000	日本国憲法	2	1	△	△							1	講義	3.5	
		S2440000	知的財産法	2	3					△	△			1	講義	3.5	
		S2443000	法学入門	2	1	△	△							1	講義	3.5	
		S2446000	民法	2	2			△	△					1	講義	3.5	
	政策学	S2449000	地方自治論	2	2			△	△					1	講義	3.5	
	社会学	S2452000	社会学	2	1	△	△							1	講義	3.5	
		S2455000	ジェンダー論	2	2			△	△					1	講義	3.5	
		S2458000	地域社会学	2	2			△	△					1	講義	3.5	
	環境学	S2461000	生産と消費の環境論	2	2			△	△					1	講義	3.5	
		S2464000	地域環境マネジメント	2	3					△	△			1	講義	3.5	休講
		S2473000	人間社会と環境問題	2	1	△	△							1	講義	3.5	
		S2476000	地域と環境	2	2			△	△					1	講義	3.5	
		S2479000	福祉と技術	2	1	△	△							1	講義	3.5	
	文学	S2485000	都市と文学	2	1	△	△							1	講義	3.5	
	国際社会	S2488000	現代日本の社会	2	1	△	△							1	講義	3.5	
		S2489000	グローバル化論	2	2			△	△					1	講義	3.5	
	芸術学	S2491000	芸術学	2	1	△	△							1	講義	3.5	
	文化	S2494000	文化人類学	2	1	△	△							1	講義	3.5	
		S2497000	比較文化論	2	3					△	△			1	講義	3.5	
		S2500000	アジア文化論	2	1	△	△							1	講義	3.5	
経済学	S2503000	現代の日本経済	2	1	△	△							1	講義	3.5		
	S2505000	経済学	2	1	△	△							1	講義	3.5		
	S2512000	応用経済学	2	3					△	△			1	講義	3.5		
コミュニケーション	S2518000	プレゼンテーション入門	2	1	△	△							1	講義	3.5		
	S2521000	レポートライティング	2	1	△	△							1	講義	3.5		
地理学	S2524000	地域・社会調査入門	2	2			△	△					1	講義	3.5		
	S2527000	地域と経済	2	2			△	△					1	講義	3.5		

表1 基礎・教養科目群 (つづき)

△ 選択科目

	科目番号	科目名称	単位数	年次	1年次	2年次	3年次	4年次	週 コマ数	講義 区分	学修・教育 到達目標	備考	
					前	後	前	後					前
体育・健康科目	S2610000	ウェルネス・スポーツ	1	3			△		1	実技	3.5		
	S2613000	ウェルネス・スポーツSC	1	3				△	1	実技	3.5		
	S2616000	バスケットボールT	1	1	△				1	実技	9		
	S2619000	バスケットボールSC	1	1		△			1	実技	9		
	S2622000	軟式野球T	1	1	△				1	実技	9		
	S2625000	軟式野球SC	1	1		△			1	実技	9		
	S2628000	卓球T	1	1	△				1	実技	9		
	S2631000	卓球SC	1	1		△			1	実技	9		
	S2634000	サッカーSC	1	1		△			1	実技	9		
	S2637000	テニスT	1	1	△				1	実技	9		
	S2640000	テニスSC	1	1		△			1	実技	9		
	S2643000	フットサルT	1	1	△				1	実技	9		
	S2646000	フットサルSC	1	1		△			1	実技	9		
	S2649000	バドミントンT	1	1	△				1	実技	9		
	S2652000	バドミントンSC	1	1		△			1	実技	9		
	S2655000	バレーボールSC	1	1		△			1	実技	9		
	S2658000	フラッグフットボールSC	1	1		△			1	実技	9		
	S2661000	ソフトボールSC	1	1		△			1	実技	9		
	S2664000	スキーSC	1	1		△			1	実技	9		
	S2674000	ゴルフ	2	1	△				2	実技	9		
	S2673000	ゴルフアドバンスSC	1	1	△	△			1	実技	9		
	S2676000	フィットネスA	1	3			△		1	実技	9		
	S2679000	フィットネスB	1	3				△	1	実技	9		
	理論科目	S2682000	身体運動のバイオメカニクス	2	1	△				1	講義	9	
		S2685000	スポーツ生理学	2	1		△			1	講義	9	
		S2688000	スポーツ健康学	2	3			△	△	1	講義	9	
		S2691000	ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーション	2	1	△				1	演習	9	1年次限定
S2694000		ヘルスコンディショニング演習	2	1	△				1	演習	9		
S2697000		エクササイズ演習(基礎)	2	3			△		1	演習	9		
S2700000		エクササイズ演習(応用)	2	3				△	1	演習	9		

※開講期の【前期・後期】【1Q・3Q】【2Q・4Q】は、当該年度の時間割を参照してください。

※体育・健康科目の豊洲キャンパス開講科目は、3年次以上が履修可能です。

1年次、2年次は、大宮キャンパス開講科目を履修してください(集中開講科目を含む)。

但し、ヘルスリテラシー&スポーツコミュニケーションは、1年次のみ履修可能です。

表2 専門科目群

① APコース (2021年度入学生)

◎ 必修科目 ○ コース必修

1 選択必修科目 (1群) 2 選択必修科目 (2群) △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後				
S0010000	建築デザイン基礎1	2		◎								3	演習	4	
S0013000	建築デザイン入門	2		△								1	講義	2,4	
S0016000	居住空間史	2		△								1	講義	1	
S0019000	力学の基礎	2		△								1	講義	3,4	
S0022000	デザイン史	2			△							1	講義	1	
S0025000	建築デザイン基礎2	2		◎								3	演習	4	
S0034000	建築スタジオ演習1	2			△							2	演習	4,5	APコースのみ
S0037000	建築の形態と空間	2			△							1	講義	4	
S0040000	建築ものづくり	2			△							1	講義	4	
S0043000	建築環境工学1	2			◎							1	講義	2,4	
S0046000	構造力学・演習	3			◎							2	講義	3,4	
S0210000	住生活論	2				△						1	講義	1	
S0219000	建築スタジオ演習2	2				○						3	演習	4,5	APコースのみ
S0221099	CAD・CG演習	2				◎						2	演習	4	
S0222000															
S0225000	建築設計計画論	2				△						1	講義	4	
S0228000	建築計画1	2				△						1	講義	4	
S0231000	都市地域計画	2				△						1	講義	4	
S0234000	西洋建築史	2				△						1	講義	1	
S0237000	建築環境工学2	2				△						1	講義	2,4	
S0240000	材料力学・演習	3				△						2	講義	3,4	
S0243000	建築構造計画	2				△						1	講義	3,4	
S0246000	構造材料	2				△						1	講義	4	
S0249000	色彩・素材論	2					△					1	講義	4	
S0252000	建築環境心理学	2					△					1	講義	4	
S0261000	建築スタジオ演習3	2					○					3	演習	4,5	APコースのみ
S0270000	地域マネジメント	2					△					1	講義	4	
S0273000	地域設計論	2					△					1	講義	4	
S0282000	日本建築史	2					△					1	講義	1	
S0285000	木造建築	2					△					1	講義	4	
S0288000	BIM演習1	2					△					2	演習	4	
S0291000	建築設備	2					△					1	講義	4	
S0294000	建築構造解析・演習	3					△					2	講義	3,4	
S0297000	仕上げ材料	2					△					1	講義	4	
S0410000	空調システム計画	2						△				1	講義	4	
S0413000	都市環境設備計画	2						△				1	講義	2,4	
S0422000	建築スタジオ演習4A	1						△				3	演習	4,5	APコースのみ
S0422500	建築スタジオ演習4B	1						△				3	演習	4,5	APコースのみ
S0428000	空間情報デザイン演習	2						△				2	演習	4,5	APコースのみ
S0431000	近代建築と技術	2						△				1	講義	1,4	
S0434000	近代建築作家論	2						△				1	講義	1,4	

1 APコース (2021年度入学生) (つづき)

◎ 必修科目 ○ コース必修

1 選択必修科目 (1群) 2 選択必修科目 (2群) △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後				
S0437000	建築構法計画論	2						△				1	講義	4	
S0440000	建築法規	2						△				1	講義	2,4	
S0443000	都市住宅論	2						△				1	講義	4	
S0446000	都市デザイン論	2						△				1	講義	4	
S0539000	建築文化史	2						△				1	講義	1	
S0452000	建築生産	2						△				1	講義	4	
S0455000	建築プロジェクトマネジメント	2						△				1	講義	4	
S0458000	B I M 演習 2	2						△				2	演習	4	
S0461000	建築構工法 1	2						△				1	講義	4	
S0466999	鉄筋コンクリート造の設計 1	2						△				1	講義	3,4	
S0467000															
S0469999	鋼構造の設計	2						△				1	講義	3,4	
S0470000															
S0473000	建築環境実験	2						△				3	実験	8,9	
S0476000	建築材料施工実験	2						△				3	実験	8,9	
S0479000	建築構造実験	2						△				3	実験	8,9	
S0482000	建築材料構造実験	2						△				3	実験	8,9	
S0485000	プロジェクトゼミ	2							○			2	実習	3,4,5,7,8,9	
S0488000	建築英語	2							△			1	講義	6	
S0491000	G I S 演習	2							△			1	演習	4	
S0494000	建築音響計画	2							△			1	講義	4	
S0497000	給排水システム計画	2							△			1	講義	4	
S0500000	光環境計画	2							△			1	講義	4	
S0503000	基礎構造	2							△			1	講義	3,4	
S0506000	鉄筋コンクリート造の設計 2	2							△			1	講義	3,4	
S0509000	マトリックス構造解析	2							△			1	講義	3,4	
S0463999	建築振動解析	2							△			1	講義	3,4	
S0464000															
S0512000	建築防災	2							△			1	講義	2,4	
S0515000	維持保全・改修	2							△			1	講義	2,4	
S0521000	ランドスケープ論	2							△			1	講義	4	
S0524000	建築計画 2	2							△			1	講義	4	
S0527000	空間保全再生計画	2							△			1	講義	2,4	
S0530000	建築・都市法規	2							△			1	講義	2,4	
S0533000	都市開発マネジメント	2							△			1	講義	4	
S0536000	都市防災計画	2							△			1	講義	2,4	
S0542000	近代建築史	2							△			1	講義	1	
S0545000	施工計画・管理	2							△			1	講義	4	
S0548000	建築経済	2							△			1	講義	4	
S0551000	木造建築の設計	2							△			1	講義	4	
S0554000	建築構工法 2	2							△			1	講義	4	
S0557000	建築環境学	2							△			1	講義	4	

1 APコース (2021年度入学生) (つづき)

◎ 必修科目 ○ コース必修

1 選択必修科目 (1群) 2 選択必修科目 (2群) △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後				
S0610000	建築家職能論	2								△		1	講義	2, 4	
S0613000	卒業研究1	2								◎ ◎		2	実習	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	
S0616000	卒業研究2	2								◎ ◎		2	実習	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	
S0810000	国際ワークショップ1A	1		2(不定)								1	実習	6, 7, 8, 9	集中
S0810100	国際ワークショップ2A	1		2(不定)								1	実習	6, 7, 8, 9	集中
S0810200	国際ワークショップ3A	1		2(不定)								1	実習	6, 7, 8, 9	集中
S0810300	国際ワークショップ4A	1		2(不定)								1	実習	6, 7, 8, 9	集中
S0813000	国際ワークショップ1B	1		2(不定)								1	実習	6, 7, 8, 9	集中
S0813100	国際ワークショップ2B	1		2(不定)								1	実習	6, 7, 8, 9	集中
S0813200	国際ワークショップ3B	1		2(不定)								1	実習	6, 7, 8, 9	集中
S0813300	国際ワークショップ4B	1		2(不定)								1	実習	6, 7, 8, 9	集中
S0816000	インターンシップ1	1						△(不定)				1	実習	6, 7, 8, 9	集中
S0819000	インターンシップ2	1						△(不定)				1	実習	6, 7, 8, 9	集中
S0822000	海外建築研修	2				2						2	実習	6, 7, 9	集中
S0825000	国内プロジェクト1	1		1(不定)								1	実習	8, 9	集中 APコースのみ
S0828000	国内プロジェクト2	1		1(不定)								1	実習	8, 9	集中 APコースのみ
S0831000	国内プロジェクト3	1		1(不定)								1	実習	8, 9	集中 APコースのみ
S0834000	国内プロジェクト4	1		1(不定)								1	実習	8, 9	集中 APコースのみ
S0853000	イタリア・ローマ建築実習A	2				2(不定)						2	実習	6, 7, 9	集中 APコースのみ
S0854000	イタリア・ローマ建築実習B	2				2(不定)						2	実習	6, 7, 9	集中 APコースのみ
S0837000	韓国建築実習A	2						2(不定)				2	実習	6, 7, 9	集中
S0840000	韓国建築実習B	2						2(不定)				2	実習	6, 7, 9	集中
S0843000	フランス建築実習A	2						2(不定)				2	実習	6, 7, 9	集中
S0846000	フランス建築実習B	2						2(不定)				2	実習	6, 7, 9	集中
S0849000	イタリア・ラクイラ建築実習A	2						2(不定)				2	実習	6, 7, 9	集中
S0852000	イタリア・ラクイラ建築実習B	2						2(不定)				2	実習	6, 7, 9	集中
S0855000	ロシア建築実習A	2						2(不定)				2	実習	6, 7, 9	集中 APコースのみ
S0858000	ロシア建築実習B	2						2(不定)				2	実習	6, 7, 9	集中 APコースのみ
S0861000	プロジェクト研究1	2				△						1	講義	7, 8, 9	集中 APコースのみ
S0864000	プロジェクト研究2	2					△					1	講義	7, 8, 9	集中 APコースのみ
S0867000	プロジェクト研究3	2						△				1	講義	7, 8, 9	集中 APコースのみ
S0871000	国内ワークショップ1	1		△(不定)								1	実習	8, 9	集中
S0872000	国内ワークショップ2	1		△(不定)								1	実習	8, 9	集中
S0873000	国内ワークショップ3	1		△(不定)								1	実習	8, 9	集中
S0874000	国内ワークショップ4	1		△(不定)								1	実習	8, 9	集中

2 SAコース (2021年度入学生)

◎ 必修科目 ○ コース必修科目 3 選択必修科目 (3群) △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後				
S0010001	建築デザイン基礎1	2		◎								3	演習	4	
S0013001	建築デザイン入門	2		△								1	講義	2,4	
S0016001	居住空間史	2		△								1	講義	1	
S0019001	力学の基礎	2		△								1	講義	3,4	
S0022000	デザイン史	2			△							1	講義	1	
S0025001	建築デザイン基礎2	2			◎							3	演習	4	
S0028001	空間建築デザイン演習1	2			△							2	演習	4,5	SAコースのみ
S0037001	建築の形態と空間	2			△							1	講義	4	
S0043001	建築環境工学1	2			◎							1	講義	2,4	
S0046001	構造力学・演習	3			◎							2	講義	3,4	
S0210000	住生活論	2				△						1	講義	1	
S0213001	空間建築デザイン演習2	2				○						3	演習	4,5	SAコースのみ
S0222001	CAD・CG演習	2				◎						2	演習	4	
S0225001	建築設計計画論	2				△						1	講義	4	
S0231001	都市地域計画	2				△						1	講義	4	
S0234001	西洋建築史	2				△						1	講義	1	
S0237001	建築環境工学2	2				△						1	講義	2,4	
S0240001	材料力学・演習	3				△						2	講義	3,4	
S0243001	建築構造計画	2				△						1	講義	3,4	
S0246001	構造材料	2				△						1	講義	4	
S0249000	色彩・素材論	2					△					1	講義	4	
S0252000	建築環境心理学	2					△					1	講義	4	
S0255001	空間建築デザイン演習3	2					○					3	演習	4,5	SAコースのみ
S0267001	建築設計論	2					△					1	講義	4	SAコースのみ
S0273001	地域設計論	2					△					1	講義	4	
S0279001	建築構法	2					△					1	講義	4	SAコースのみ
S0282001	日本建築史	2					△					1	講義	1	
S0288001	BIM演習1	2					△					2	演習	4	
S0291001	建築設備	2					△					1	講義	4	
S0294001	建築構造解析・演習	3					△					2	講義	3,4	
S0297001	仕上げ材料	2					△					1	講義	4	
S0410001	空調システム計画	2						△				1	講義	4	
S0413000	都市環境設備計画	2						△				1	講義	2,4	
S0416001	空間建築デザイン演習4A	1						△				3	演習	4,5	SAコースのみ
S0416501	空間建築デザイン演習4B	1						△				3	演習	4,5	SAコースのみ
S0431001	近代建築と技術	2						△				1	講義	1,4	
S0437001	建築構法計画論	2						△				1	講義	4	
S0440001	建築法規	2						△				1	講義	2,4	
S0443001	都市住宅論	2						△				1	講義	4	
S0539001	建築文化史	2						△				1	講義	1	
S0452001	建築生産	2						△				1	講義	4	
S0458001	BIM演習2	2						△				2	演習	4	

2 SAコース (2021年度入学生) (つづき)

◎ 必修科目

○ コース必修科目

3 選択必修科目 (3群)

△ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後				
S0467001	鉄筋コンクリート造の設計1	2						△				1	講義	3,4	
S0470001	鋼構造の設計	2						△				1	講義	3,4	
S0473001	建築環境実験	2						3				3	実験	8,9	
S0476001	建築材料施工実験	2						3				3	実験	8,9	
S0479001	建築構造実験	2						3				3	実験	8,9	
S0485001	プロジェクトゼミ	2							○			2	実習	3,4,5,7,8,9	
S0488000	建築英語	2							△			1	講義	6	
S0491000	G I S 演習	2							△			1	演習	4	
S0494000	建築音響計画	2							△			1	講義	4	
S0497000	給排水システム計画	2							△			1	講義	4	
S0500000	光環境計画	2							△			1	講義	4	
S0503000	基礎構造	2							△			1	講義	3,4	
S0506000	鉄筋コンクリート造の設計2	2							△			1	講義	3,4	
S0509000	マトリックス構造解析	2							△			1	講義	3,4	
S0464001	建築振動解析	2							△			1	講義	3,4	
S0512000	建築防災	2							△			1	講義	2,4	
S0515000	維持保全・改修	2							△			1	講義	2,4	
S0518001	空間地域デザイン演習	2							△			3	演習	4,5	SAコースのみ
S0521001	ランドスケープ論	2							△			1	講義	4	
S0542001	近代建築史	2							△			1	講義	1	
S0545001	施工計画・管理	2							△			1	講義	4	
S0551001	木造建築の設計	2							△			1	講義	4	
S0557001	建築環境学	2							△			1	講義	4	
S0610001	建築家職能論	2								△		1	講義	2,4	
S0613000	卒業研究1	2								◎◎		2	実習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	
S0616000	卒業研究2	2								◎◎		2	実習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	
S0810001	国際ワークショップ1A	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0810101	国際ワークショップ2A	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0810201	国際ワークショップ3A	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0810301	国際ワークショップ4A	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0813001	国際ワークショップ1B	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0813101	国際ワークショップ2B	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0813201	国際ワークショップ3B	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0813301	国際ワークショップ4B	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0816000	インターンシップ1	1						△(不定)				1	実習	6,7,8,9	集中
S0819000	インターンシップ2	1						△(不定)				1	実習	6,7,8,9	集中
S0822001	海外建築研修	2					△					2	実習	6,7,9	集中
S0871001	国内ワークショップ1	1			△(不定)							1	実習	8,9	集中
S0872001	国内ワークショップ2	1			△(不定)							1	実習	8,9	集中
S0873001	国内ワークショップ3	1			△(不定)							1	実習	8,9	集中
S0874001	国内ワークショップ4	1			△(不定)							1	実習	8,9	集中

3 UAコース (2021年度入学生)

◎ 必修科目 ○ コース必修科目 4 選択必修科目 (4群) △ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後				
S0010002	建築デザイン基礎1	2		◎								3	演習	4	
S0013002	建築デザイン入門	2		△								1	講義	2,4	
S0016002	居住空間史	2		△								1	講義	1	
S0019002	力学の基礎	2		△								1	講義	3,4	
S0022000	デザイン史	2			△							1	講義	1	
S0025002	建築デザイン基礎2	2			◎							3	演習	4	
S0031002	都市建築デザイン演習1	2			△							2	演習	4,5	UAコースのみ
S0037002	建築の形態と空間	2			△							1	講義	4	
S0040002	建築ものづくり	2			△							1	講義	4	
S0043002	建築環境工学1	2			◎							1	講義	2,4	
S0046002	構造力学・演習	3			◎							2	講義	3,4	
S0210000	住生活論	2				△						1	講義	1	
S0216002	都市建築デザイン演習2	2				○						3	演習	4,5	UAコースのみ
S0222002	CAD・CG演習	2				◎						2	演習	4	
S0228002	建築計画1	2				△						1	講義	4	
S0231002	都市地域計画	2				△						1	講義	4	
S0234002	西洋建築史	2				△						1	講義	1	
S0237002	建築環境工学2	2				△						1	講義	2,4	
S0240002	材料力学・演習	3				△						2	講義	3,4	
S0243002	建築構造計画	2				△						1	講義	3,4	
S0246002	構造材料	2				△						1	講義	4	
S0249000	色彩・素材論	2					△					1	講義	4	
S0252000	建築環境心理学	2					△					1	講義	4	
S0258002	都市建築デザイン演習3	2					○					3	演習	4,5	UAコースのみ
S0270002	地域マネジメント	2					△					1	講義	4	
S0282002	日本建築史	2					△					1	講義	1	
S0285002	木造建築	2					△					1	講義	4	
S0288002	BIM演習1	2					△					2	演習	4	
S0291002	建築設備	2					△					1	講義	4	
S0294002	建築構造解析・演習	3					△					2	講義	3,4	
S0297002	仕上げ材料	2					△					1	講義	4	
S0539002	建築文化史	2						△				1	講義	1	
S0410002	空調システム計画	2						△				1	講義	4	
S0413000	都市環境設備計画	2						△				1	講義	2,4	
S0419002	都市建築デザイン演習4A	1						△				3	演習	4,5	UAコースのみ
S0419502	都市建築デザイン演習4B	1						△				3	演習	4,5	UAコースのみ
S0425002	都市地域デザイン演習	2						△				3	演習	4,5	UAコースのみ
S0434002	近代建築作家論	2						△				1	講義	1,4	
S0446002	都市デザイン論	2						△				1	講義	4	
S0455002	建築プロジェクトマネジメント	2						△				1	講義	4	
S0458002	BIM演習2	2						△				2	演習	4	
S0461002	建築構工法1	2						△				1	講義	4	
S0464002	建築振動解析	2							△			1	講義	3,4	
S0467002	鉄筋コンクリート造の設計1	2						△				1	講義	3,4	

3 UAコース (2021年度入学生) (つづき)

◎ 必修科目

○ コース必修科目

4 選択必修科目 (4群)

△ 選択科目

科目番号	科目名称	単位数	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		週コマ数	講義区分	学修・教育到達目標	備考
				前	後	前	後	前	後	前	後				
S0470002	鋼構造の設計	2						△				1	講義	3,4	
S0473002	建築環境実験	2						4				3	実験	8,9	
S0482002	建築材料構造実験	2						4				3	実験	8,9	
S0485002	プロジェクトゼミ	2							○			2	実習	3,4,5,7,8,9	
S0488000	建築英語	2						△				1	講義	6	
S0491000	G I S 演習	2						△				1	演習	4	
S0494000	建築音響計画	2						△				1	講義	4	
S0497000	給排水システム計画	2						△				1	講義	4	
S0500000	光環境計画	2						△				1	講義	4	
S0503000	基礎構造	2						△				1	講義	3,4	
S0506000	鉄筋コンクリート造の設計2	2						△				1	講義	3,4	
S0509000	マトリックス構造解析	2						△				1	講義	3,4	
S0512000	建築防災	2						△				1	講義	2,4	
S0515000	維持保全・改修	2						△				1	講義	2,4	
S0521000	ランドスケープ論	2						△				1	講義	4	
S0524002	建築計画2	2						△				1	講義	4	
S0527002	空間保全再生計画	2						△				1	講義	2,4	
S0530002	建築・都市法規	2						△				1	講義	2,4	
S0533002	都市開発マネジメント	2						△				1	講義	4	
S0536002	都市防災計画	2						△				1	講義	2,4	
S0542002	近代建築史	2						△				1	講義	1	
S0548002	建築経済	2						△				1	講義	4	
S0554002	建築構工法2	2						△				1	講義	4	
S0557002	建築環境学	2						△				1	講義	4	
S0613000	卒業研究1	2								◎ ◎		2	実習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	
S0616000	卒業研究2	2								◎ ◎		2	実習	1,2,3,4,5,6,7,8,9	
S0810002	国際ワークショップ1A	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0810102	国際ワークショップ2A	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0810202	国際ワークショップ3A	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0810302	国際ワークショップ4A	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0813002	国際ワークショップ1B	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0813102	国際ワークショップ2B	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0813202	国際ワークショップ3B	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0813302	国際ワークショップ4B	1			△(不定)							1	実習	6,7,8,9	集中
S0816000	インターンシップ1	1						△(不定)				1	実習	6,7,8,9	集中
S0819000	インターンシップ2	1						△(不定)				1	実習	6,7,8,9	集中
S0822002	海外建築研修	2				△						2	実習	6,7,9	集中
S0837002	韓国建築実習A	2						△(不定)				2	実習	6,7,9	集中
S0840002	韓国建築実習B	2						△(不定)				2	実習	6,7,9	集中
S0843002	フランス建築実習A	2						△(不定)				2	実習	6,7,9	集中
S0846002	フランス建築実習B	2						△(不定)				2	実習	6,7,9	集中
S0849002	イタリア・ラクイラ建築実習A	2						△(不定)				2	実習	6,7,9	集中
S0852002	イタリア・ラクイラ建築実習B	2						△(不定)				2	実習	6,7,9	集中
S0871002	国内ワークショップ1	1			△(不定)							1	実習	8,9	集中
S0872002	国内ワークショップ2	1			△(不定)							1	実習	8,9	集中
S0873002	国内ワークショップ3	1			△(不定)							1	実習	8,9	集中
S0874002	国内ワークショップ4	1			△(不定)							1	実習	8,9	集中

Ⅲ 特色ある科目

SDGs（持続可能な開発目標）関連科目

持続可能な開発目標（SDGs）について

- SDGs（エスディーゼーズ）とは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称であり、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴールと169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



- 目標1：（貧困）あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
- 目標2：（飢餓）飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
- 目標3：（保健）あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
- 目標4：（教育）すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
- 目標5：（ジェンダー）ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
- 目標6：（水・衛生）すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
- 目標7：（エネルギー）すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
- 目標8：（経済成長と雇用）包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。
- 目標9：（インフラ、産業化、イノベーション）強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
- 目標10：（不平等）各国内及び各国間の不平等を是正する。
- 目標11：（持続可能な都市）包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。

- 目標12：(持続可能な生産と消費) 持続可能な生産消費形態を確保する。
- 目標13：(気候変動) 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
- 目標14：(海洋資源) 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
- 目標15：(陸上資源) 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
- 目標16：(平和) 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
- 目標17：(実施手段) 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

- シラバスには、その科目が上記SDGsの17のゴールのどれに関連しているかが示されています。皆さん一人一人がSDGsの目標を理解し、学び、そして実践することが持続可能な開発目標（SDGs）の達成につながります。

【参考資料】

外務省：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>

国際連合広報センター：

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

地域志向科目

文部科学省 地（知）の拠点整備事業と地域志向科目について

- 本学は、2013年度（平成25年度）文部科学省「地（知）の拠点整備事業」『「まちづくり」「ものづくり」を通じた人材育成推進事業』について、採択されました（申請数319件中採択数52件（私立大学では、180件中15件））。同事業は2017年度を以って終了しましたが、2018年度以降もその活動を継続しています。
- 国が設定する本事業の背景には、急激な少子高齢化、地域コミュニティの衰退、グローバル化によるボーダーレス化、新興国の台頭による国際競争の激化など、我が国が置かれている困難な状況に対し、全国のさまざまな地域発の特色ある取組を進化・発展させ、地域発の社会イノベーションや産業イノベーションを創出していくことが急務とされている、ということがあります。その中で、大学は、社会の変革を担う人材の育成などを重大な責務としており、目指すべき大学像として、学生がしっかり学び自らの人生と社会の未来を主体的に切り開く能力を培う大学、地域再生の核となる大学、社会の知的基盤としての役割を果たす大学などが挙げられています。
- 本学においては、建学の精神として「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」を掲げ、全学を挙げて教育・研究・社会貢献活動に邁進しているところであります。本事業の目的とするところは、本学の建学の精神と大きく符合し、「地域とともに生き、地域とともに学生を育む実践教育の場」として本事業をとらえ、応募・採択となりました。
- 具体的には、教育カリキュラムにおいて、地域の課題を取り上げ、課題解決をする科目を「地域志向科目」として設定し、多くの学生が地域の事例を通して実践的技術者たる実力を培う場を設けていくことといたします。「地域志向科目」の定義は以下のとおりです。

■ 「地域志向科目」の定義

1. 地域志向授業科目	主として、教室等の座学の授業で、地域の事例・課題等を取り上げたものをいいます。
2. 地域連携PBL	主として、フィールドワーク等の演習活動において、履修生のプロジェクトグループを複数作って、地域の事例・課題等についてプロジェクト検討させたものをいいます。
3. 地域志向卒論・修論・博論	テーマにおいて、地域の事例・課題を取り上げた研究論文をいいます。

社会的・職業的自立力育成科目

本学におけるキャリア教育と社会的・職業的自立力を育成する科目について

- 皆さんは大学卒業後、あるいは大学院修了後、いずれは社会に出て、さまざまな役割を担いながら生きていくこととなります。したがって、大学での学修は社会で活躍するための準備だということができます。社会に出た後の人生にも多くの分岐点があり、そのたびに大きな選択を迫られることとなります。そのときに、賢い選択をするためには、生涯学び続けることが必要です。生涯学び続ける姿勢とその方法を身につけるのも、大学での学修の大切な目的のひとつです。
- 社会で活躍できる力、そして生涯学び続ける力、これらを養うために、専門科目では、それぞれの専門分野の視点から系統的なカリキュラムが組まれています。また共通教養科目では、世界や社会の枠組みという別の視点から幅広く学ぶカリキュラムが組まれています。しかし、皆一人ひとり、やりたいことや夢見ている将来の姿が違うので、それを実現するための道筋も一人ひとり違わずです。したがって、折々に、自分の将来を見据えて学修過程を振り返り、学修計画を立て直すことも大切です。これが**キャリアの視点**での学修の進め方です。
- このようなキャリアの視点での学修を助けるために、各授業科目のシラバスには、社会で活躍するために必要な力の育成について、担当教員がどのように意識しているかが表示されています。キャリアの視点で捉えた社会で活躍するために必要な力は、**社会的・職業的自立力**と名付けられており、〔表－1〕のように4つの力で構成されています。この4つの力は、皆さんが定期的に、あるいは必要に応じて受検するPROGテストで測る基礎力にも対応しています。シラバスでは、この4つの力のそれぞれについて、育成を意識しているかどうかを示されています。キャリアの視点での学修の振り返りや学修計画の作成に際して、この社会的・職業的自立力育成に関する情報を参考にしてください。

〔表－1〕社会的・職業的自立力を構成する4つの力

社会的・職業的自立力	定義	PROGで測る力	定義	
知識活用力	知識を活用して課題を解決する力	リテラシー	情報収集力	課題発見・解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力
			情報分析力	事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的かつ多角的に整理・分析しそれらを統合して隠れた構造をとらえて本質を見極める力
			課題発見力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実をとらえ、その背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力
			構想力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処法を構想する力
対人基礎力	他人からの信頼を築き、チームを動かす力	コンピテンシー	親和力	多様な考えを受け入れ、相手の立場に立って考えることで信頼を引き出し、人間関係を構築していく力。また、自分から積極的に人間関係を築いていく力
			協働力	周囲と情報を共有し、周りのやる気を引き出して協力して課題に取り組み、また、リーダー的立場からメンバーを指導し、チームや後輩の意欲を高めていく力
			統率力	異なる意見にも耳を傾ける一方で、自分の意見も主張しながら、交渉や討議を建設的に進めていく力
對自己基礎力	自分の感情をコントロールし、主体的に行動する力	コンピテンシー	感情抑制力	ストレスのかかる場面でも自分の気持ちや感情を把握した上で状況を前向きに捉え、困難に挑戦していく力
			自信創出力	自分の強みや弱みといった自身の特徴を理解し、自分に自信を持っていると同時に、機会を捉えて自分を向上させようとする力
			行動持続力	自分なりのルールや決まりを作りながら、最後まで粘り強く責任を持って物事に取り組む力。自分にとって必要だと思う事柄に継続して取り組んでいく力
対課題基礎力	課題解決に向けて、計画し行動する力	コンピテンシー	課題発見力	さまざまな角度から適切な情報源と手段で情報を収集し、広い視野から現象や事実をとらえ、そのメカニズムや原因について考察して、解決すべき課題を発見する力
			計画立案力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処法を構想する力
			実践力	目標達成に向けて自ら行動し、予測した先行きにに合わせて全体の動きを調整しながら、早めに行動を修正し、実行する力

- 昨今の変化の激しい世の中を生き抜くためには、専門分野の知識や技能だけでなく、「前に踏み出す力（主体的に学ぶ力、実行力、など）」、「考え抜く力（課題発見・解決力、など）」、「多様な人々と協働して働く力（チームワーク力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、など）」などの「社会人基礎力・汎用的能力」を鍛える必要があります。これらの能力は、近年では企業が人材を採用するにあたり重視する傾向にあります。
- 本学のプログラムにある『アクティブ・ラーニング科目』およびキャリア教育の『社会的・職業的自立力育成科目』を履修していくことで、社会を生き抜き、社会に貢献する人材となるのに必要な、社会人基礎力や基礎的・汎用的能力を身につけることができます。
- 例えば、下図は、これらの科目を履修することで、社会人基礎力・汎用的能力が向上することを示しています。学生の皆さんは、学科のカリキュラムマップを参考にして、知識や技能だけでなく社会人基礎力も鍛えるように、履修計画を立ててください。

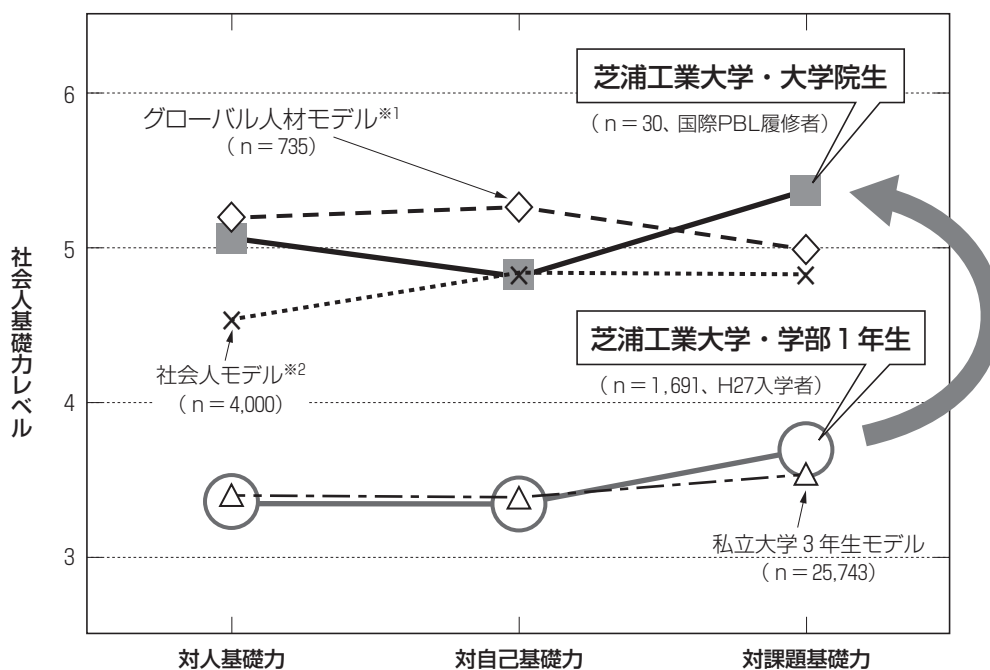


図 『アクティブ・ラーニング科目』およびキャリア教育の『社会的・職業的自立力育成科目』を履修した学生の社会人基礎力の向上例

※1 グローバル人材モデル：25歳～49歳の日本人ビジネスパーソン、アジアにおいて、外国人のマネジメント経験が2年以上あり、そのマネジメントに満足している者
 ※2 社会人モデル：20代後半から30代前半にかけて課長、もしくはチームをマネジメントしている若手ビジネスパーソン

芝浦学生応援ツール S*gsot Portfolioの利用

- S*gsot Portfolioで、将来の就職先として考えている業種のモデル（就職内定時の先輩たちのPROGスコア平均）と自身のPROGスコアを比較することで、社会的・職業的自立力のどの能力が満足しているのか、伸ばしていかなければならないのかが分かります。
- 可能性は無限大です。たくさん利用して、将来を見据えたキャリア形成を積極的に進めてください。

アクティブ・ラーニング科目

アクティブ・ラーニング科目 A, B, C について

- 今日、大学での教育は「何を教えたか」から「何を学んだか」へと、大学教育の主体や成果に関する指標が大きく変化してきています。これは、従来の知識修得型授業だけではなく、その修得した知識を活用する能力の育成も大学教育に求められていることを意味します。以下は、平成25年5月に教育再生実行会議から出された提言の一部です。
- 社会において求められる人材が高度化・多様化する中、大学は、教育内容を充実し、学生が徹底して学ぶことのできる環境を整備する必要があります。(中略) 大学は、課題発見・探求能力、実行力といった「社会人基礎力」や「基礎的・汎用的能力」などの社会人として必要な能力を有する人材を育成するため、学生の能動的な活動を取り入れた授業や学習法（アクティブ・ラーニング）、双方向の授業展開など教育方法の質的転換を図る。また、授業の事前準備や事後展開を含めた学生の学修時間の確保・増加、学修成果の可視化、教育課程の体系化、組織的教育の確立など全学的教学マネジメントの改善を図るとともに、厳格な成績評価を行う。国は、こうした取組を行う大学を重点的に支援し、積極的な情報公開を促す。企業、国は、学生の多彩な学修や経験も評価する。
- 芝浦工業大学は、平成26年度に文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP）」に採択されました。今回採択されたプログラムでは、建学の精神「社会に学び社会に貢献する技術者の育成」の下に、「総合的問題解決能力を備えた世界（社会）に貢献できる技術者」の育成を教育目標として定め、学生の主体的な学びを促し、学修成果の可視化に取り組んでいます。
- 本学では実験、実習、演習、PBL（Project/Problem-Based Learning | 課題解決型学修）を通して学生が意欲的に学修に取り組める環境整備を進めており、このようなアクティブ・ラーニングを、全学部で4年間の体系的かつ組織的な教育プログラムとして構築します。また、講義科目へのアクティブ・ラーニングの導入により学生の意欲を高めるため、学修マネジメントシステム（LMS）と連携した、双方向システムの導入整備を進めます。

そこで、アクティブ・ラーニングの更なる導入・進展を図るために、2015年度から「アクティブ・ラーニング科目 A, B, C」を設定し、シラバスにその標記を付すことにしました。これらの科目の定義は以下のとおりです。

■ 科目の定義

アクティブ・ラーニング科目 A	学修者の能動的な学修への参加による授業が大部分の科目
アクティブ・ラーニング科目 B	学修者の能動的な学修への参加による授業が概ね半数を超える科目
アクティブ・ラーニング科目 C	各科目の中で1コマ分以上、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた授業を行う科目

IV 資格の取得

1 取得できる主な資格

資格・免許の種類	取得条件等 (①資格取得可能 or 受験資格取得可能) (②: 取得の要件)	関連機関	備考
一級建築士	①受験資格取得可能 ②指定科目の単位を取得して卒業すれば、受験資格を得られる。 試験に合格すること、所定の建築に関する実務経験を経ることにより、資格を得られる。	(公財) 建築技術教育普及センター	※指定科目等についてはp.60～62参照
二級建築士	①受験資格取得可能 ②指定科目の単位を取得して卒業すれば、受験資格を得られる。 試験に合格すること、所定の建築に関する実務経験を経ることにより、資格を得られる。	(公財) 建築技術教育普及センター	※指定科目等についてはp.60～62参照
木造建築士	①受験資格取得可能 ②指定科目の単位を取得して卒業すれば、受験資格を得られる。 試験に合格すること、所定の建築に関する実務経験を経ることにより、資格を得られる。	(公財) 建築技術教育普及センター	※指定科目等についてはp.60～62参照
1級施工管理技士 (建設施工・建設機械施工・ 電気工事施工・造園施工・ 管工事施工・土木施工)	①受験資格取得可能 ②卒業後3年以上の実務経験により、受験資格を得られる。	(株) 建設管理センター	
2級施工管理技士 (建設施工・建設機械施工・ 電気工事施工・造園施工・ 管工事施工・土木施工)	①受験資格取得可能 ②卒業後1年以上の実務経験により、受験資格を得られる。	(株) 建設管理センター	
コンクリート技士・ 主任技士	①受験資格取得可能 ②コンクリート技術に関する科目の単位を取得し、技士は卒業後2年以上の実務経験、主任技士は4年以上の実務経験、により受験資格を得られる。	(公社) 日本コンクリート工学会	※指定科目については試験実施団体に確認すること。
建築設備士	①受験資格取得可能 ②卒業後2年以上の建築設備に関する実務経験により、受験資格を得られる。	(公財) 建築技術教育普及センター	
建築積算士補	①資格取得可能 ②専門科目「建築経済」の単位を取得することにより資格取得が可能。	(公社) 日本建築積算協会	

2 建築士（一級建築士・二級建築士・木造建築士）

- 一級、二級又は木造建築士の資格を取得するためには、①国土交通大臣の指定する建築に関する科目（以下「指定科目」という）を修めて卒業した後、建築士試験に合格すること、②建築に関する実務として国土交通省令で定めるものの経験（以下「実務経験」という）を政令所定の年数以上有することが必要です。
- 建築士試験の受験に必要な指定科目の修得については、必ず履修しなければならない分野別の単位数とそれ以外の科目を含めた総単位数が定められており、その詳細は下記表のとおりです。なお資格によって必要な科目、単位数が異なり、条件を満たさないと受験資格が得られません。
- 建築学部建築学科の場合は、下記表の所定の単位数以上を修得して卒業することにより、一級、二級又は木造建築士試験を受けることが可能となります。「指定科目分類」と建築学科各コースの科目との対応は、次ページ以降で確認してください。
- 高等専門学校を卒業し、かつ既に二級、木造建築士試験に必要な指定科目を修得している方は、大学在学中に二級、木造建築士試験を受験することができます。在学中に試験に合格した場合には、卒業後直ちに資格を取得できます。
- 建築士の制度、試験の詳細については、公益財団法人建築技術教育普及センターのホームページをご覧ください。

国土交通省指定科目分類	一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
	7単位	7単位	7単位	5単位	5単位	5単位
①建築設計製図	7単位	7単位	7単位	5単位	5単位	5単位
②建築計画	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位
③建築環境工学	2単位	2単位	2単位			
④建築設備	2単位	2単位	2単位			
⑤構造力学	4単位	4単位	4単位	6単位	6単位	6単位
⑥建築一般構造	3単位	3単位	3単位			
⑦建築材料	2単位	2単位	2単位			
⑧建築生産	2単位	2単位	2単位	1単位	1単位	1単位
⑨建築法規	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
①～⑨の計 (a)	30単位	30単位	30単位	20単位	20単位	20単位
⑩ その他 (b)	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a)+(b)	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
建築実務の経験	2年	3年	4年	0年	1年	2年

- この表の「指定科目」とは、建築士受験資格を得るために単位修得が必要な科目であり、この「学修の手引」の「必修科目」とは異なるので注意してください。

■ 2021年度入学者用 建築士試験受験要件 指定科目一覧表

国交省指定科目の分類 (要件単位数)		指定科目として開講する科目				
二級・木造建築士	一級建築士	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	コース科目
①建築設計製図 (5単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	建築デザイン基礎1	1	必修	2	
		建築デザイン基礎2	1	必修	2	
		建築スタジオ演習1	1	選択	2	AP
		空間建築デザイン演習1	1	選択	2	SA
		建築スタジオ演習2	2	選択	2	AP
		空間建築デザイン演習2	2	選択	2	SA
		都市建築デザイン演習2	2	選択	2	UA
		CAD・CG演習	2	選択	2	
		建築スタジオ演習3	2	選択	2	AP
		空間建築デザイン演習3	2	選択	2	SA
		都市建築デザイン演習3	2	選択	2	UA
		イタリア・ローマ建築実習A	2	選択	2	AP
		イタリア・ローマ建築実習B	2	選択	2	AP
		建築スタジオ演習4A	3	選択	1	AP
		建築スタジオ演習4B	3	選択	1	AP
		空間建築デザイン演習4A	3	選択	1	SA
		空間建築デザイン演習4B	3	選択	1	SA
		都市建築デザイン演習4A	3	選択	1	UA
		都市建築デザイン演習4B	3	選択	1	UA
		都市地域デザイン演習	3	選択	2	UA
		フランス建築実習A	3	選択	2	AP・UA
		フランス建築実習B	3	選択	2	AP・UA
		韓国建築実習A	3	選択	2	AP・UA
		韓国建築実習B	3	選択	2	AP・UA
		イタリア・ラクイラ建築実習A	3	選択	2	AP・UA
		イタリア・ラクイラ建築実習B	3	選択	2	AP・UA
ロシア建築実習A	3	選択	2	AP		
ロシア建築実習B	3	選択	2	AP		
②～④ 建築計画、建築環境 工学又は建築設備 (7単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	居住空間史	1	選択	2	
		建築の形態と空間	1	選択	2	
		建築設計計画論	2	選択	2	AP・SA
		建築計画1	2	選択	2	AP・UA
		西洋建築史	2	選択	2	AP・UA
		住生活論	2	選択	2	
		建築設計論	2	選択	2	SA
		都市建築論	2	選択	2	AP・UA
		建築史	2	選択	2	AP・SA
		日本建築史	2～3	選択	2	
		建築環境心理学	2	選択	2	
		近代建築作家論	3	選択	2	AP・UA
		建築構法計画論	3	選択	2	AP・SA
		都市住宅論	3	選択	2	AP・SA
		建築文化史	3	選択	2	AP・SA
		近代建築史	3	選択	2	AP・UA
		建築計画2	3	選択	2	AP・UA

国交省指定科目の分類 (要件単位数)		指定科目として開講する科目				
二級・木造建築士	一級建築士	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	コース科目
②～④ 建築計画、建築環境工学又は建築設備 (7単位数以上)	③建築環境工学 (2単位数以上)	建築環境工学1	1	必修	2	
		建築環境工学2	2	選択	2	
		建築環境実験	3	選択	2	
		光環境計画	3	選択	2	
		建築音響計画	3	選択	2	
	④建築設備 (2単位数以上)	建築設備	2	選択	2	
		空調システム計画	3	選択	2	
		都市環境設備計画	3	選択	2	
		給排水システム計画	3	選択	2	
⑤～⑦ 構造力学、建築一般構造又は建築材料 (6単位数以上)	⑤構造力学 (4単位数以上)	力学の基礎	1	選択	2	
		構造力学・演習	1	必修	3	
		材料力学・演習	2	選択	3	
		建築構造解析・演習	2	選択	3	
		建築振動解析	3	選択	2	
		マトリックス構造解析	3	選択	2	
	⑥建築一般構造 (3単位数以上)	建築構造計画	2	選択	2	
		建築構法	2	選択	2	SA
		建築構工法1	3	選択	2	AP・UA
		建築構造実験	3	選択	2	AP・SA
		鋼構造の設計	3	選択	2	
		鉄筋コンクリート造の設計1	3	選択	2	
		建築構工法2	3	選択	2	AP・UA
		鉄筋コンクリート造の設計2	3	選択	2	
		木造建築の設計	3	選択	2	AP・SA
	基礎構造	3	選択	2		
	⑦建築材料 (2単位数以上)	構造材料	2	選択	2	
		仕上げ材料	2	選択	2	
		木造建築	2	選択	2	AP・UA
		建築材料構造実験	3	選択	2	AP・UA
建築材料施工実験		3	選択	2	AP・SA	
⑧建築生産 (1単位数以上)	⑧建築生産 (2単位数以上)	建築ものづくり	1	選択	2	AP・UA
		建築生産	3	選択	2	AP・SA
		建築プロジェクトマネジメント	3	選択	2	AP・UA
		施工計画・管理	3	選択	2	AP・SA
		建築経済	3	選択	2	AP・UA
⑨建築法規 (1単位数以上)	⑨建築法規 (1単位数以上)	建築法規	3	選択	2	AP・SA
		建築・都市法規	3	選択	2	AP・UA

国交省指定科目の分類（要件単位数）		指定科目として開講する科目				
二級・木造建築士	一級建築士	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	コース科目
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	建築デザイン入門	1	選択	2	
		デザイン史	1	選択	2	
		都市建築デザイン演習 1	1	選択	2	UA
		プロジェクト研究 1	2	選択	2	AP
		都市地域計画	2	選択	2	
		プロジェクト研究 2	2	選択	2	AP
		地域設計論	2	選択	2	AP・SA
		地域マネジメント	2	選択	2	AP・UA
		色彩・素材論	2	選択	2	
		BIM演習 1	2	選択	2	
		BIM演習 2	3	選択	2	
		空間情報デザイン演習	3	選択	2	AP
		プロジェクト研究 3	3	選択	2	AP
		近代建築と技術	3	選択	2	AP・SA
		都市デザイン論	3	選択	2	AP・UA
		空間地域デザイン演習	3	選択	2	SA
		ランドスケープ論	3	選択	2	AP・SA
		都市開発マネジメント	3	選択	2	AP・UA
		空間保全再生計画	3	選択	2	AP・UA
		建築防災	3	選択	2	
		維持保全・改修	3	選択	2	
		建築家職能論	4	選択	2	AP・SA
		国内プロジェクト 1	1～3	選択	1	AP
		国内プロジェクト 2	1～3	選択	1	AP
		国内プロジェクト 3	1～3	選択	1	AP
		国内プロジェクト 4	1～3	選択	1	AP
		国内ワークショップ 1	1～4	選択	1	
		国内ワークショップ 2	1～4	選択	1	
		国内ワークショップ 3	1～4	選択	1	
		国内ワークショップ 4	1～4	選択	1	
		国際ワークショップ 1A	1～4	選択	1	
		国際ワークショップ 2A	1～4	選択	1	
		国際ワークショップ 3A	1～4	選択	1	
国際ワークショップ 4A	1～4	選択	1			
国際ワークショップ 1B	1～4	選択	1			
国際ワークショップ 2B	1～4	選択	1			
国際ワークショップ 3B	1～4	選択	1			
国際ワークショップ 4B	1～4	選択	1			
インターンシップ 1	3	選択	1			
インターンシップ 2	3	選択	1			
40単位以上 実務経験 0年 30単位以上 実務経験 1年 20単位以上 実務経験 2年	60単位以上 実務経験 2年 50単位以上 実務経験 3年 40単位以上 実務経験 4年	要件 ①～⑨の各区分で（ ）に示された単位を履修すること。 ①～⑩の合計単位数に応じ、左記の実務経験が必要				

注意) 本表は学科のカリキュラム変更にあわせて変更されます。変更内容は、ガイダンス、Scombなどにより通知しますので、それにしただってください。

2021年度

学修の手引

建築学部

2021年4月1日発行

編集発行 芝浦工業大学 豊洲学事部学生課

WebシラバスURL <http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp>

豊洲キャンパス 〒135-8548 東京都江東区豊洲3丁目7番5号
TEL. 03-5859-7370 (ダイヤルイン)

大宮キャンパス 〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307番地
TEL. 048-687-5105 (ダイヤルイン)

芝浦キャンパス 〒108-8548 東京都港区芝浦3丁目9番14号
TEL. 03-6722-2600 (ダイヤルイン)
